学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第２編（各教科）

商業

令和４年１月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

＜各事例概要一覧と事例＞

（Ｐ．２～18）

事例１　キーワード　　「知識・技術」の評価，「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目　「ビジネス基礎」　単元　「ビジネス計算の方法」（第１学年）

本事例は，単元「ビジネス計算の方法」の評価規準と，この単元における学習活動に即した評価規準を設定し評価を行っている。また，各学期における観点ごとの評価の総括と，学年末における観点ごとの評価の総括までの一連の事例を示している。

「知識・技術」の評価については，ビジネス計算における基本的な計算方法について，ワークシートを活用し，ビジネス計算における基本的な計算方法を理解し，計算結果の記入が正しく行われているかを見取り，評価した事例を具体的に示している。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については，ビジネス計算における基本的な計算手法を活用し，正確な計算結果と記数法を用いて記述した数値をもとに契約の締結と履行について，ワークシートを活用してビジネス計算の問題を解き，ペア学習でその解答と契約の可否に関する判断が正しいかどうかを確認，考察する過程で見取り，評価した事例を具体的に示している。

（Ｐ.19～47）

事例２　キーワード　　「知識・技術」の評価，「思考・判断・表現」の評価

科目　「簿記」　単元　「簿記の概要」（第１学年）

本事例は，単元「簿記の概要」の評価規準と，この単元における学習活動に即した評価規準を設定し評価を行っている。また，各学期における観点ごとの評価の総括と，学年末における観点ごとの評価の総括までの一連の事例を示している。

「知識・技術」の評価については，高校入学後，初めて学ぶ科目であることから，生徒の身近なビジネスや事例を取り上げ，実際に行われている取引について生徒がイメージを持って学べるよう工夫する必要がある。グループワークで取り扱う内容に加え，発展的な問題を取り入れて作問し，単元テストを通して，生徒一人ひとりの理解度を見取り，評価した事例を具体的に示している。

「思考・判断・表現」については，グループ活動を通して協働的に学ぶことで，企業活動の一連の流れを把握し，自己の考えや他の考えを深めながら思考する過程で，適切な判断力や表現力を養うため，「ルーブリック表（評価規準）を提示し，パフォーマンス（プレゼンテーション）の様子を見取り，評価した事例を具体的に示している。

（Ｐ.48～66）

事例３　キーワード　　「思考・判断・表現」の評価，「主体的に取り組む態度」の評価

科目　「情報処理」　単元　「情報セキュリティの確保と法規」（１学年）

本事例は，単元「情報セキュリティの確保と法規」の評価規準と，この単元における学習活動に即した評価規準を設定し評価を行っている。また，各学期における観点ごとの評価の総括と，学年末における観点ごとの評価の総括までの一連の事例を示している。

「思考・判断・表現」の評価については，生徒自らの考えと他の生徒たちへの意見や発表からの「気付き」及び「あらためて整理する」に対するワークシートへの記述を見取り，評価した事例を具体的に示している。

「主体的に取り組む態度」の評価については，グループワークの様子を観察し，積極的に授業に取り組もうとする姿勢を見取り，併せてワークシートへの記述により，評価した事例を具体的に示している。

商　業　科　事例１（ビジネス基礎）
キーワード　「知識・技術」の評価，「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名	〔指導項目〕
ビジネス計算の方法	（４）取引とビジネス計算 ア　売買取引と代金決済 イ　ビジネス計算の方法

１　単元の目標

（１）ビジネス計算の方法について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付ける。
（２）ビジネス計算の方法に関する課題を発見し，科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。
（３）ビジネス計算の方法について自ら学び，適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネス計算の方法について実務に即して理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。	ビジネス計算の方法に関する課題を発見し，科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	ビジネス計算の方法について自ら学び，適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　指導と評価の計画（８時間）

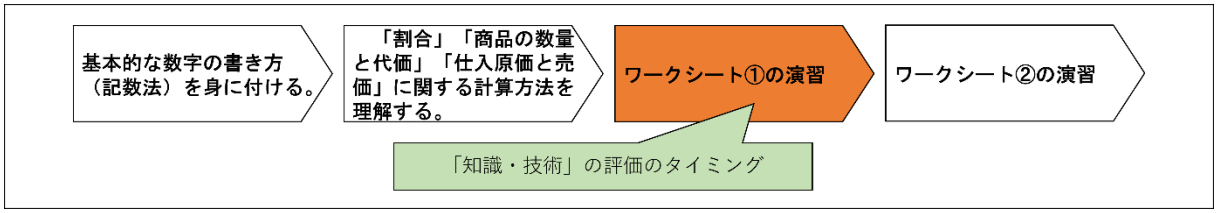
時間	ねらい・学習活動	評価 観点	評価 記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（４時間）	１　ビジネス計算における基礎・基本 ビジネスにおける計算では，適切な計算方法や記数法に従い，正しい結果を算出しなければならないことを理解し，契約の締結及び履行において，その結果を正確に表すことの重要性を考察する。 ・　ビジネス計算に関するワークシート①を活用して基本的な計算方法や記数法について理解する。 ・　ワークシート②にある計算問題をペア学習で演習し，これまで学んだ基本的な計算方法や記数法を効果的に活用し，計算結果をもとに契約の締結と履行について，主体的かつ協働的に取り組む。	知 思態	○ ○	・　ビジネス計算の基本的な計算手法と記数法について理解している。 ﾜｰｸｼｰﾄ①『評価資料１』 ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） ・　ビジネス計算の手法を適切に活用し，計算結果をもとに契約の可否を決定するため，積極的にペア学習に取り組もうとしている。 ﾜｰｸｼｰﾄ②『評価資料２』 観察『評価資料３』
第二次（４時間）	２　ビジネス計算における応用 ビジネスにおける計算では，ある度量衡や通貨の単位を別の単位に換算したり，利息の計算や株式の評価などを行う。目的に応じて必要な計算方法を選択し，場合によっては複数の計算方法を組み合わせる等，正しい計算結果が得られるよう適切な計算方法を考察する。 ・　ビジネス計算に関するワークシート③を活用して，度量衡や通貨の換算，利息計算，株式の評価に関する計算を理解する。 ・　計算目的に応じて，適切な計算方法を選択，もしくは複数の計算方法を組み合わせて計算結果を導きだし，その計算結果を実務に生かすよう考察する。	知 思態	○ ○	・　目的に応じた適切な計算結果を導き出すための計算方法を理解している。 ・　計算目的に応じて，適切な計算方法を選択，もしくは複数の計算方法を組み合わせて計算結果を導きだし，その計算結果を実務に生かすよう考察している。 ﾜｰｸｼｰﾄ③ ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） 小テスト（評価資料３）

４　観点別学習状況の評価の進め方

（１）「知識・技術」の評価

ア　評価の進め方

本事例における「知識・技術」の評価基準は，「取引とビジネス計算について実務に即して理解しているとともに，関連する技術を身に付けている」ことである。本事例では，ビジネス計算における基本的な計算方法について，実務と関連付けて理解するとともに，記数法を用いて計算結果を正確に記述する技術を確実に身に付けることをねらいとしている。そこで，ワークシート①（資料１）を活用し，ビジネス計算における基本的な計算方法を理解し，計算結果の記入が正しく行われているかを見取っている。授業の流れ（図１）ではビジネス計算における基本的な計算方法と計算結果の記述方法を学んだ後，ワークシート①を活用した演習を実施する。



【図１　授業の流れ】

	ビジネス計算の基礎　ワークシート①	
問題①	今月のある商品の売上高は¥240,000 であった。前月の売上高と比較した計算結果が（1）1.2 だった場合と（2）１だった場合，それぞれ何を意味しているのか説明しなさい。	
解　答	＜説明＞	
問題②	仕入原価¥70,000 の商品に，仕入原価の２割の利益を見込んで予定価格をつけましたが，予定価格の１割引きで販売しました。実売価はいくらですか。なお，解答にあたっては，計算過程も記入すること。	
解　答	＜計算過程＞ ＜解答＞	
問題③	ある商品を¥180,000 で仕入れ，仕入原価の 10%の利益を見込んで予定価格をつけましたが，その予定価格から¥46,000 値引きして販売するとどうなになるか答えなさい。なお，解答にあたっては，計算過程も記入すること。	
解　答	＜計算過程＞ ＜解答＞	

【資料１】

イ　評価の実践事例（**ワークシート①『評価資料１』**の評価の進め方例）

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
知識・技術	ビジネス計算における基本的な記数法や計算方法を理解している。	ビジネス計算における基本的な記数法や計算方法を実務に即して理解している。	ビジネス計算における基本的な記数法や計算方法を理解していない。【手だて】教科書を参考に計算方法等を再学習する。

○「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例

問題①	今月のある商品の売上高は¥240,000であった。前月の売上高と比較した計算結果が（1）1.2だった場合と（2）1だった場合，それぞれ何を意味しているのか説明しなさい。
解　答	＜説明＞ （1）は0.2の利益。 （2）は利益が出ない。 解答は正しいが，説明が乏しい。
問題②	仕入原価¥70,000の商品に，仕入原価の2割の利益を見込んで予定価格をつけましたが，予定価格の1割引きで販売しました。実売価はいくらですか。なお，解答にあたっては，計算過程も記入すること。
解　答	＜計算過程＞ ¥70,000　÷　1.2　＝　¥84,000 ¥84,000　×　0.9　＝　¥75,600 ＜解答＞ ¥75,600
問題③	ある商品を¥180,000で仕入れ，仕入原価の10%の利益を見込んで予定価格をつけましたが，その予定価格から¥46,000値引きして販売するとどうなになるか答えなさい。なお，解答にあたっては，計算過程も記入すること。
解　答	＜計算過程＞ ¥180,000　÷　1.1　＝　¥198,000 ¥198,000　－　¥46,000　＝　¥152,000 ¥152,000　－　¥180,000　＝　－¥28,000 ＜解答＞ ¥28,000の損失。 解答は正しいが，説明が乏しい。

ビジネス計算における基本的な計算方法を理解して回答しており，計算結果に対する説明がやや乏しく感じられるがビジネス計算における基本的な計算方法を理解し，記数法に基づいて計算結果が記述されていることから，B評価とした。

解答が正しく，実務に即した詳細な説明がなされている。

○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例

問題①	今月のある商品の売上高は¥240,000であった。前月の売上高と比較した計算結果が（1）1.2だった場合と（2）1だった場合，それぞれ何を意味しているのか説明しなさい。
解　答	＜説明＞ （1）は次の計算で前月の売上高（¥240,000　÷　1.2　＝　¥200,000）を求めることができる。今月の売上高から前月の売上高を引くと¥40,000の利益が出ていることを意味している。 （2）（1）と同様に計算すると利益が出ていないので，（2）の場合，今月の売上は前月の売上と同じことを意味している。
問題②	仕入原価¥70,000の商品に，仕入原価の2割の利益を見込んで予定価格をつけましたが，予定価格の1割引きで販売しました。実売価はいくらですか。なお，解答にあたっては，計算過程も記入すること。
解　答	＜計算過程＞ ¥70,000　÷　1.2　＝　¥84,000 ¥84,000　×　0.9　＝　¥75,600 ＜解答＞ ¥75,600

問題③	ある商品を¥180,000 で仕入れ，仕入原価の 10%の利益を見込んで予定価格をつけましたが，その予定価格から¥46,000 値引きして販売するとどうなになるか答えなさい。なお，解答にあたっては，計算過程も記入すること。
解　答	＜計算過程＞ ¥180,000　÷　1.1　＝　¥198,000 ¥198,000　－　¥46,000　＝　¥152,000 ¥152,000　－　¥180,000　＝　－¥28,000 ＜解答＞ ¥28,000 の損失がでるので，販売すべきではない。

ただ解答を記述するだけでなく，販売の判断も記述されている。

B評価として判断した生徒と同様の状況であることに加え，問題①の解答の状況も詳細かつ実務に即した明快な表現であるとともに，問題③の解答では計算結果をもとに，「損失がでるので，販売すべきではない」と売買契約の締結と履行についても記述していることからA評価とした。

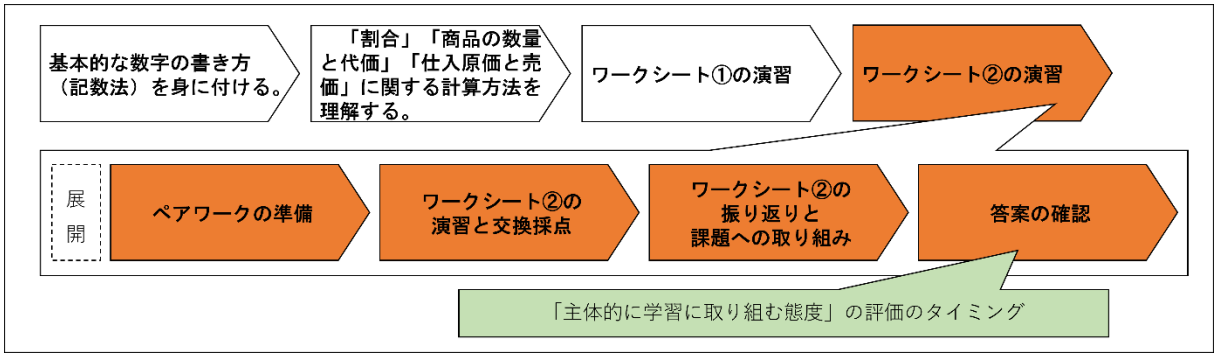
C評価については，各問題における誤答が想定される。本事例では，「ビジネス計算における基本的な計算方法について，実務と関連付けて理解するとともに，記数法を用いて計算結果を正確に記述する技術を確実に身に付ける」ことをねらいとしているので，教科書の計算例や本ワークシートを活用し，基本的な計算方法等を確認したうえで，問題を繰り返し演習して本事例のねらいを達成するよう指導する。

（２）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

ア　評価の進め方

本事例における「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準は，「取引とビジネス計算について自ら学び，適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組もうとしている」ことである。

ビジネスにおける契約の締結では，契約を締結する前に契約金額が本当に正しいのか，または契約金額が適切なのかを複数人で確認することが重要になってくる。よって，本事例ではビジネス計算における基本的な計算手法を活用し，正確な計算結果と記数法を用いて記述した数値をもとに契約の締結と履行をしなければならないことを学習する。これを効果的に学習するために必要となるのが，ペア学習における振り返りである。資料２のワークシート（一部抜粋）を活用してビジネス計算の問題を解き，ペア学習でその解答と契約の可否に関する判断が正しいかどうかを確認，考察する過程を見取り，評価する。授業の流れを示すと図２の通りである。



【図２　授業の流れ】

ビジネス計算の基礎　ワークシート②

（取り組み所用時間：約３０～３５分）

組・番号	氏　　名
組　　番	

☆次のルールに従って，ワークシートに取り組んでください。問題演習は１人２回行います。

【ルール１】１グループは４人です。その中でペアを２つ作ってください。制限時間は１分です。

【ルール２】４つある問題から，１つ問題を選びます。ただし，他の人と同じ問題を選んではいけません。グループ内で取り組む問題を決めてください。制限時間は１分です。

（例）

ペア１	Ａさん・・・　問題①	ペア２	Ｃさん・・・　問題③
	Ｂさん・・・　問題②		Ｄさん・・・　問題④

【ルール３】問題を解く前に自分の選んだ問題の取組No欄に「１」を記入します。２回目は取組No欄に「２」を記入します。では問題を解きます。制限時間は３分です。

【ルール４】解答後，ペア同士で交換採点します。その際，解答についてアドバイスできること等があれば，解答欄にコメント等を付けてください。制限時間は３分です。

【ルール５】採点した結果について，ペアで確認作業してください。制限時間は２分です。

【ルール６】返却された解答を見て，参考になった点があれば「参考欄」に気づいたことを記入しましょう。制限時間は２分です。

【ルール７】次に他のペアが取り組んだ問題に挑戦しましょう。ペアは変えずに維持します。ペア内で問題を選んでください。制限時間は１分です。

（例）

ペア１	Ａさん・・・　問題③	ペア２	Ｃさん・・・　問題①
	Ｂさん・・・　問題④		Ｄさん・・・　問題②

※以降，【ルール３】～【ルール６】に従って問題に取り組んでください。

【ルール８】前回の取り組みで指摘されたことが改善されていれば，その内容を「前回の取組からの改善点」欄に記入してみましょう。

【ルール９】このワークシートの取り組みを振り返って見ましょう。【ワークシートのまとめ】欄に必要事項を記入してください。制限時間は５分です。

【ルール10】１人，２つの問題が未解答になっています。未回答の問題を解答し，期日までに提出してください。なお，取組Noは「課題」にしてください。

提出期日　令和〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）

提出場所　職員室前課題提出ＢＯＸ

問題①	仕入原価¥200,000 の商品に３割５分の利益を見込んで予定価格をつけました。そのうち８割の商品は予定価格の９割引で販売し，残りの商品は全て７割引で販売しました。実売価格の総額はいくらになりますか。また，この商品はこのまま販売してもいいでしょうか。
取組No	
解　答	＜計算過程＞ ＜解答＞ 【実売価格】 【販売の可否】

採　点 結　果		参考欄	
前回の取組からの改善点			

問題②	仕入原価に 30%の利益を見込んで予定価格をつけましたが，予定売価の 30%引きで販売したところ，商品の実売価が¥728,000 でした。この商品の仕入原価はいくらでしょうか。また，この商品はこのまま販売してもいいでしょうか。
取組No	
解　答	＜計算過程＞ ＜解答＞ 【仕入原価】 【販売結果】

採　点 結　果		参考欄	
前回の取組からの改善点			

問題③ 取組No	エアコンを¥230,000で仕入れ，仕入諸掛¥46,000を支払いました。また，仕入原価の20%を見込んで予定価格をつけました。しかし，買い主との価格交渉で，予定価格より¥60,000の値引きを要求されました。この商品の実売価格と契約を進めていいのか判断しなさい。		
解　答	＜計算過程＞ ＜解答＞ 【実売価格】 【契約判断】		
採　点 結　果		参考欄	
前回の取組からの改善点			

問題④ 取組No	仕入原価¥85,000の商品に25%の利益を見込んで予定価格をつけましたが，この商品を他店が割引販売をしたため，予定売価から10%の金額を値引き，¥1,000以下の端数に関しては切り捨てて販売することにしました。この商品の実売価格と契約を進めていいのか判断しなさい。		
解　答	＜計算過程＞ ＜解答＞ 【実売価格】 【契約の判断】		
採　点 結　果		参考欄	
前回の取組からの改善点			

【ワークシートのまとめ】	
☆【1】～【3】の当てはまるものに〇をつけてください。１回目の問題演習から・・・	
【1】改善があった（　）【2】改善が不十分だった（　）【3】改善できなかった（　）	
この取り組みを整理して，次の学習で何を学びたいか書いてください。	

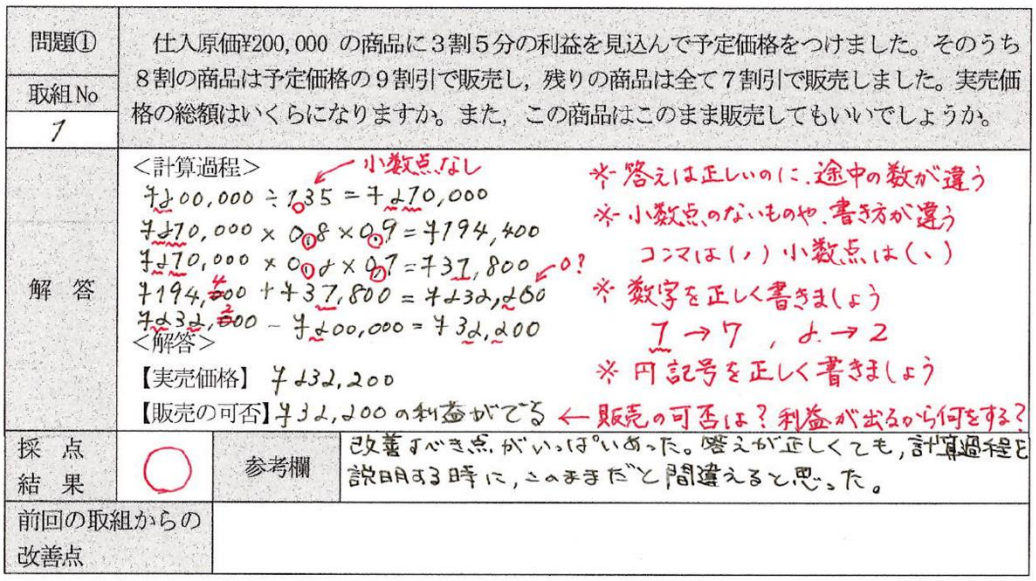
【資料２】

イ　評価の実践事例

（ア）自らの学習を調整しようとする側面について（**ワークシート②『評価資料２』**の評価の進め方例）

※次の［態度α］［読み取りポイント（例）］及び［評価方法（例）］をもとに，ワークシートの記述を評価する。

［態度α］［読み取りのポイント（例）］			
1	１回目の演習と２回目の演習を比較して，ビジネス計算に対する理解の変容やより深い学びが見られる。		
2	解答内容から，学習を振り返り，整理しようとする姿勢が見られる。		
3	ワークシートのまとめから，学習全体を整理して，これからの学習に向かおうとする姿勢が見られる。		
［評価方法（例）］	ＬＶ３：３項目	ＬＶ２：２項目	ＬＶ１：１項目以下



問題①	仕入原価¥200,000 の商品に３割５分の利益を見込んで予定価格をつけました。そのうち８割の商品は予定価格の９割引で販売し，残りの商品は全て７割引で販売しました。実売価格の総額はいくらになりますか。また，この商品はこのまま販売してもいいでしょうか。
取組No 1	
解　答	＜計算過程＞ ¥200,000 ÷ 1.35 = ¥270,000 ¥270,000 × 0.8 × 0.9 = ¥194,400 ¥270,000 × 0.2 × 0.7 = ¥37,800 ¥194,400 + ¥37,800 = ¥232,200 ¥232,200 − ¥200,000 = ¥32,200 ＜解答＞ 【実売価格】¥232,200 【販売の可否】¥32,200 の利益がでる
採　点 結　果	○
参考欄	改善すべき点がいっぱいあった。答えが正しくても，計算過程を説明する時に，このままだと間違えると思った。
前回の取組からの改善点	

小数点なし

※答えは正しいのに，途中の数が違う

※小数点のないものや，書き方が違う

コンマは（，）小数点は（．）

0?

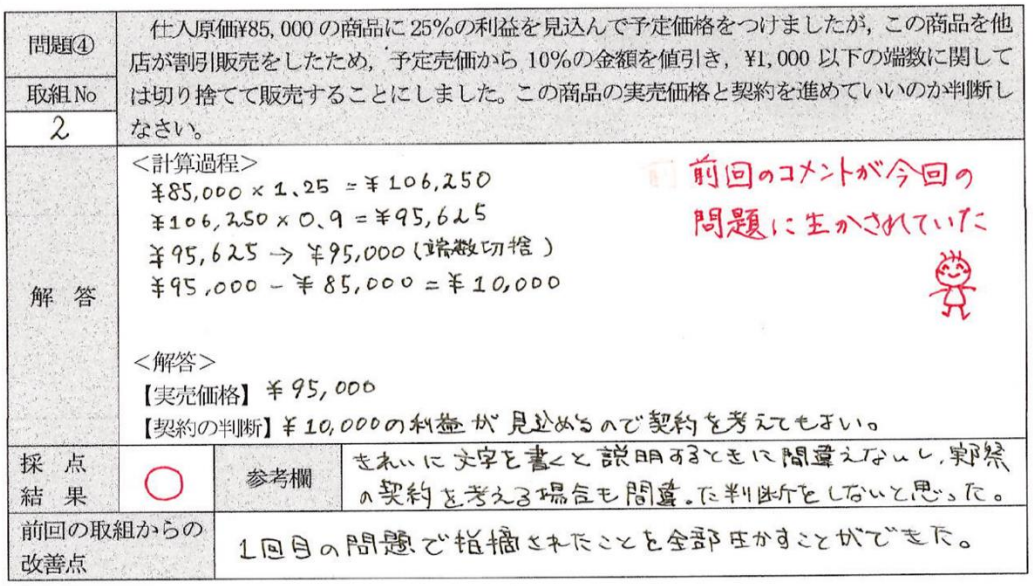
※数字を正しく書きましょう

1 → 7 ，2 → 2

※円記号を正しく書きましょう

← 販売の可否は？利益が出るから何をする？

【図３】



問題④	仕入原価¥85,000 の商品に25%の利益を見込んで予定価格をつけましたが，この商品を他店が割引販売をしたため，予定売価から 10%の金額を値引き，¥1,000 以下の端数に関しては切り捨てて販売することにしました。この商品の実売価格と契約を進めていいのか判断しなさい。
取組No 2	
解　答	＜計算過程＞ ¥85,000 × 1.25 = ¥106,250 ¥106,250 × 0.9 = ¥95,625 ¥95,625 → ¥95,000（端数切捨） ¥95,000 − ¥85,000 = ¥10,000 ＜解答＞ 【実売価格】¥95,000 【契約の判断】¥10,000の利益が見込めるので契約を考えてもよい。
採　点 結　果	○
参考欄	きれいに文字を書くと説明するときに間違えないし，郵送の契約を考える場合も間違った判断をしないと思った。
前回の取組からの改善点	１回目の問題で指摘されたことを全部生かすことができた。

前回のコメントが今回の問題に生かされていた

【図４】

【ワークシートのまとめ】	
☆【1】～【3】の当てはまるものに○をつけてください。１回目の問題演習から・・・	
【1】改善があった（○）【2】改善が不十分だった（　）【3】改善できなかった（　）	
この取り組みを整理して，次の学習で何を学びたいか書いてください。	細かい所で自分が気付いていない点に気付くことができた。次の時間からは，もっと難しい計算がでてくるから，気をひきしめて勉強したい。今日の勉強を次の勉強に生かしたい。

【図５】

【図３】と【図４】を比較すると，生徒の学びに対する変容や深い学びを読み取ることができる。また，【図５】のワークシートのまとめを見ても，学習全体を整理して，これからの学習に向かおうとする姿勢が見られるので，**［態α］はＬＶ３とする。**

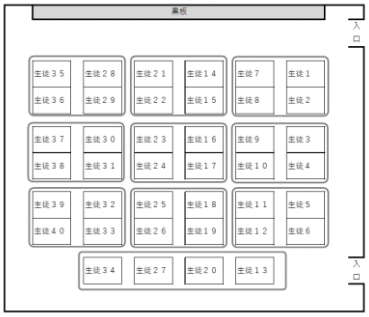
（イ）粘り強い取り組みを行おうとする側面について（**観察『評価資料３』**の評価の進め方例）

※次の［態度β］［読み取りポイント・評価方法（例）］をもとに，観察シートを活用して評価する。なお，今回は例として**［態度β］はＬＶ２として評価**することにする。

観察シート（座席表形式）

○生徒の学習状況を観察し，読み取りポイントに従って，ＶＬ３であれば観察シートに③，ＬＶ１であれば①を記入する。

［態β］［読み取りのポイント・評価方法（例）］	
ＬＶ３	ペア学習に積極的であり，ビジネス計算の方法を確かめ，計算結果を契約の可否へ効果的につなげるための意見交換をしており，十分満足できる。
ＬＶ２	おおむね適切な行動で，互いに教え合い，ペアワークが達成できている。
ＬＶ１	ペアワークには参加しているが，改善を要する点が多く，努力を要する。



【『評価資料３』観察シート**】**

※『評価資料２』の［態α］と『評価資料３』の［態β］をそれぞれＬＶ１～３の組み合わせで評価Ａ，Ｂ，Ｃをつける。本事例では，［態度α］はＬＶ３，［態度β］はＬＶ２としたので，最終的な「主体的に学習に取り組む態度」の評価は，下表から「Ａ評価」となる。

［態α］自らの学習を調整しようとする側面	ＬＶ３	Ｂ	Ａ	Ａ
	ＬＶ２	Ｂ	Ｂ	Ａ
	ＬＶ１	Ｃ	Ｂ	Ｂ
		ＬＶ１	ＬＶ２	ＬＶ３
	［態β］粘り強い取り組みを行おうとする側面			

５　観点別学習状況の評価の総括

（１）単元（〔指導項目〕）における観点ごとの評価の総括

本事例では，ある観点で何回か行った評価結果，Ａ，Ｂ，Ｃを，Ａ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１のように数値によって表し，その数値を平均して総括する。総括の結果をＢとする範囲は［2.4＞平均値≧1.2］とした。例えば，ある単元の知識・技術の評価結果が「ＡＢＢＣ」であった場合の平均値は，約 2.0［（３＋２＋２＋１）÷４］で総括の結果はＢとなる。

（２）学期末における観点ごとの評価の総括

定期考査において総得点100点の問題を観点別に作成し，下表に従って各観点の得点をＡ，Ｂ，Ｃとする。例えば前期中間考査の問題について「知識・技術」は40点，「思考・判断・表現」は30点，「主体的に学習に取り組む態度」は30点という配点で計100点満点の問題を作成したとする。

ある生徒が「知識・技術」の問題を25点，「思考・判断・表現」の問題を20点，「主体的に学習に取り組む態度」の問題を 25 点得点した場合，この生徒の前期中間考査における観点ごとの評価は，「知識・技術」がＢ，「思考・判断・表現」がＢ，主体的に学習に取り組む態度」がＡとなる。

		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		【40】	【30】	【30】
Ａとする点数	配点の80%以上	40≧点数≧32	30≧点数≧24	30≧点数≧24
Ｂとする点数	配点の40%以上80%未満	32＞点数≧16	24＞点数≧12	24＞点数≧12
Ｃとする点数	配点の40%未満	16＞点数≧ 0	12＞点数≧ 0	12＞点数≧ 0

表内の【　】は配点を表している。

この定期考査の評価結果に，上記６（１）に従って記録していた各単元における観点ごとの評価を加味すると，図６のように前期中間時点での観点ごとの平均値を算出することができる。

	評価機会等	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期中間	単 元 1	Ａ（ 3 ）	（ ）	Ｂ（ 2 ）
	単 元 2	（ ）	Ｂ（ 2 ）	Ｂ（ 2 ）
	単 元 3	Ａ（ 3 ）	（ ）	Ａ（ 3 ）
	単 元 4	Ｂ（ 2 ）	Ｂ（ 2 ）	（ ）
	単 元 5	（ ）	Ｂ（ 2 ）	Ｂ（ 2 ）
	単 元 6	Ｂ（ 2 ）	Ｂ（ 2 ）	（ ）
	定期考査	Ｂ（ 2 ）	Ｂ（ 2 ）	Ａ（ 3 ）
	平 均 値	Ａ（ 2.4 ）	Ｂ（ 2 ）	Ａ（ 2.4 ）

【図６】前期中間考査時点までの集計結果

次に観点ごとの平均値を合計し，この合計値をもとに下表に従って評定を決定する。なお，各評定の範囲における最高点は9.0（3.0＋3.0＋3.0）とし，最低点は3.0とする。

各評定の範囲			評　定	
9.0点	≧合計≧	7.2点	【５】	特に高い程度のもの
7.2点	＞合計≧	6.3点	【４】	十分に満足できるもの
6.3点	＞合計≧	4.5点	【３】	おおむね満足できるもの
4.5点	＞合計≧	3.6点	【２】	努力を要するもの
3.6点	＞合計≧	3.0点	【１】	一層の努力を要するもの

この生徒の例では，各観点の平均値を合計すると合計が6.8（＝2.4＋2.0＋2.4）となるので，前期中間時点での評定は「４」になる。その具体例が図７である。前期末考査時点においても同様の方法で評価し，前期中間考査時点の評価結果と前期末考査時点の評価結果を統合（平均）して前期末時点での評価とする。

	評価機会等	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期中間	単 元 1	A （ 3 ）	（ ）	B （ 2 ）
	単 元 2	（ ）	B （ 2 ）	B （ 2 ）
	単 元 3	A （ 3 ）	（ ）	A （ 3 ）
	単 元 4	B （ 2 ）	B （ 2 ）	（ ）
	単 元 5	（ ）	B （ 2 ）	B （ 2 ）
	単 元 6	B （ 2 ）	B （ 2 ）	（ ）
	定期考査	B （ 2 ）	B （ 2 ）	A （ 3 ）
	平 均 値	A （ 2.4 ）	B （ 2 ）	A （ 2.4 ）
	評価結果	平均値合計 6.8	評 定	4

【図７】前期中間考査時点までの評価結果

（３）学年末における観点ごとの評価の総括，評定への総括

本事例では，各学期で総括した結果を統合（平均）して学年末評価の総括とする。

（４）評価の総括の実践事例

これまでの総括の方法を参考にしながら，総括の場面を想定した事例を以下に示す。

なお，本事例はあくまでも参考例であり，観点別学習状況の評価と総括については，様々な考えがあることに加え，各学校の実情によって異なる。そのため，各校で科目の特性や具体的な学習活動などを踏まえて，総括の場面や方法を工夫することが大切である。

【本事例の総括の考え方】

① 「十分満足できる」状況と判断されるものをA，「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB，「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。

② Aを３点，Bを２点，Cを１点として，単元ごとに評価する。

③ ②に従い評価した各単元の評価結果に定期考査の結果を加味して，観点ごとの平均値を算出する。

④ ③で算定した各観点の平均値をもとに，下表に従って観点別学習状況の評価とする。

学習の実現状況（平均値）			観点別学習状況の評価	
3 点	≧平均≧	2.4 点	【A】	十分満足できる
2.4 点	＞平均≧	1.2 点	【B】	おおむね満足できるもの
1.2 点	＞平均≧	1	【C】	努力を要するもの

⑤ ④で求めた各観点の平均値を合計し，その合計値をもとに下表に従って評定案を作成する。

各評定の範囲			評 定	
9.0 点	≧合計≧	7.2 点	【5】	特に高い程度のもの
7.2 点	＞合計≧	6.3 点	【4】	十分に満足できるもの
6.3 点	＞合計≧	4.5 点	【3】	おおむね満足できるもの
4.5 点	＞合計≧	3.6 点	【2】	努力を要するもの
3.6 点	＞合計≧	3.0 点	【1】	一層の努力を要するもの

なお，この点に関しても各学校の実情によって異なるため，各校で科目の特性や具体的な学習活動などを踏まえ，評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り，生徒及び保護者に十分説明し，理解を得ることが望まれる。

次のア，イは<本事例の総括の考え方>①～⑤に基づいて，定期考査及び学期ごとに評価の総括を行い，最終的な学年末の評定を確定するまでの一連の流れを表している。本事例では，ビジネス基礎の標準最低単位数２単位で，１単位当たり 35 単位時間で１年間授業を実施した場合の例である。

また，学期は２学期制とし，各期で中間考査と期末考査を実施する。図８は学習指導要領に従って作成した１年間の指導計画の参考例である。本事例の内容は下表の「単元 11」の一部分である。

大項目		小項目		単元数	考　査	実施月	必要単位時間
（1）	商業の学習とビジネス	（ア）	商業を学ぶ重要性と学び方	単元１	前期中間	４，５，６	19
		（イ）	ビジネスの役割	単元２			
		（ウ）	ビジネスの動向・課題	単元３			
（2）	ビジネスに対する心構え	（ア）	信頼関係の構築	単元４			
		（イ）	コミュニケーションの基礎	単元５			
		（ウ）	情報の入手と活用	単元６			
（3）	経済と流通	（ア）	経済の基本概念	単元７	前期末	７，８，９	15
		（イ）	流通の役割	単元８			
		（ウ）	流通を支える活動	単元９	後期中間	10，11	16
（4）	取引とビジネス計算	（ア）	売買取引と代金決済	単元 10			
		（イ）	ビジネス計算の方法	単元 11	本事例		
（5）	企業活動	（ア）	企業の形態と組織	単元 12	後期末	12，１，２，３	20
		（イ）	マーケティングの重要性と流れ	単元 13			
		（ウ）	資金調達	単元 14			
		（エ）	財務諸表の役割	単元 15			
		（オ）	企業活動に対する税	単元 16			
		（カ）	雇用	単元 17			
（6）	身近な地域のビジネス	（ア）	身近な地域の課題	単元 18			
		（イ）	身近なビジネスの動向	単元 19			
						合計単位時間数	70

【図８】ビジネス基礎年間指導計画（例）

ア　各学期の観点別評価例

本事例では，ある生徒の後期における評価の総括を取り扱う。前期における評価に関しては，同様に総括しているものとする。

後期中間考査では，単元９～11 で取り扱った内容を観点ごと，「知識・技術」の問題は 40 点，「思考・判断・表現」の問題は 30 点，「主体的に学習に取り組む態度」の問題を 30 点で配点し，100 点満点の考査を実施する。それぞれの観点ごと，配点の 80%以上の得点であればA，配点の 40%以上 80%未満の得点の場合はB，配点の 40%未満の得点であればCと評価する。

		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		【40】	【30】	【30】
Aとする点数	配点の 80%以上	40≧点数≧32	30≧点数≧24	30≧点数≧24
Bとする点数	配点の 40%以上 80%未満	32＞点数≧16	24＞点数≧12	24＞点数≧12
Cとする点数	配点の 40%未満	16＞点数≧ 0	12＞点数≧ 0	12＞点数≧ 0

例えば，この生徒が「知識・技術」の問題を 35 点，「思考・判断・表現」の問題を 24 点，「主体的に学習に取り組む態度」の問題を 25 点得点した場合，この生徒の前期中間考査における観点ごとの評価は，「知識・技術」がA，「思考・判断・表現」がA，主体的に学習に取り組む態度」がAとなる。

この考査の結果を各単元の評価に加味して評価を算出すると図９のようになる。各観点の数値を平均して合計した結果が 7.7 点となり，＜本事例の総括の考え方＞の⑤により後期中間時点の評定は５となる。

	評価機会等	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期中間	単 元 9	A (3)	( )	B (2)
	単 元 10	( )	B (2)	B (2)
	単 元 11	B (2)	( )	A (3)
	定期考査	A (3)	A (3)	A (3)
	平 均 値	A (2.7)	A (2.5)	A (2.5)

【図９】後期中間考査時点までの評価結果（例）

後期における評価の総括については，中間考査時点での評価結果（例）と期末考査時点での評価結果（例）を統合（平均）する。

	評価機会等	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期末	単 元 12	A (3)	( )	B (2)
	単 元 13	B (2)	A (3)	( )
	単 元 14	( )	B (2)	A (3)
	単 元 15	C (1)	B (2)	( )
	単 元 16	A (3)	( )	A (3)
	単 元 17	( )	A (3)	B (2)
	単 元 18	B (2)	( )	A (3)
	単 元 19	A (3)	B (2)	( )
	定期考査	A (3)	B (2)	A (3)
	平 均 値	A (2.4)	B (2.3)	A (2.7)
	評価結果	平均値合計 7.4	評 定	5

【図 10】後期末考査時点までの評価結果（例）

統合（平均）した「後期における評価の総括結果（例）」は図 11 のようになる。

	項 目	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	中 間	A (2.7)	A (2.5)	A (2.5)
	期 末	A (2.4)	A (2.3)	A (2.7)
	平 均 値	A (2.6)	B (2.4)	A (2.6)
	評価結果	平均値合計 7.6	評 定	5

【図 11】後期における評価の総括結果（例）

イ　学年末の観点別評価例

学年末における評価の総括は，「前期における評価の総括結果」及び「後期における評価の総括結果」を統合（平均）して「学年末における評価の総括結果」を算出する。以下，図 12 から図 14 が算出した結果の例である。

	項　　目	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	中　　間	A　（ 2.4 ）	A　（ 2.0 ）	A　（ 2.4 ）
	期　　末	A　（ 2.5 ）	A　（ 2.0 ）	A　（ 2.3 ）
	平 均 値	A　（ 2.5 ）	B　（ 2.0 ）	A　（ 2.4 ）
	評価結果	平均値合計	6.9	評　定	5

【図 12】前期における評価の総括結果（例）

	項　　目	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	中　　間	A　（ 2.7 ）	A　（ 2.5 ）	A　（ 2.5 ）
	期　　末	A　（ 2.4 ）	A　（ 2.3 ）	A　（ 2.7 ）
	平 均 値	A　（ 2.6 ）	B　（ 2.4 ）	A　（ 2.6 ）
	評価結果	平均値合計	7.6	評　定	5

【図 13】後期における評価の総括結果（例）

	項　　目	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学年末	前　　期	A　（ 2.5 ）	A　（ 2.0 ）	A　（ 2.4 ）
	後　　期	A　（ 2.6 ）	A　（ 2.4 ）	A　（ 2.6 ）
	平 均 値	A　（ 2.6 ）	B　（ 2.2 ）	A　（ 2.5 ）
	評価結果	平均値合計	7.3	評　定	5

【図 14】学年末における評価の総括結果（例）

本事例はあくまでも一例であり，観点別学習状況の評価と総括については，各校の状況に応じて様々な方法で実践していくことが重要である。

＜参　考＞

定期考査（評価問題）の具体例

「知識・技術」を問う定期考査問題例

⇒基本的なビジネス計算に関する計算方法を理解しているかを見取る。

（問）　１００，０００円を年利率３％で３年間運用した場合の元利合計がいくらになるかを単利法，複利法それぞれで答えなさい。なお，端数は円未満切り捨てとする。

（解答例）単位法：￥１００，０００×０．０３×３年＝￥９，０００
￥１００，０００＋￥９，０００＝￥１０９，０００
複利法：￥１００，０００×（１＋０．０３）^{3}＝￥１０９，２７２

「思考・判断・表現」を問う定期考査問題例

⇒目的に応じた計算方法を選択し，実務に生かすことができるかを見取る。

（問）　単利法，複利法それぞれで資金運用する際の留意点を２００字以内で説明しなさい。

（解答例）　単利法は元金に対してのみ利息が計算されるので，短期運用目的で利率が一定している金融商品等を運用する場合に適している。対して，複利法は利息分が元金に加わるので，運用期間が長いほど利息は増える。よって，利率が高く，運用によって得た利息を元本に組み入れて長期的に再投資するような金融商品等を運用する場合に適している（155 字）。

「主体的に学習に取り組む態度」を問う定期考査問題例

⇒これまで学習してきた内容を振り返り，その経験を別の学習に生かせるか等を見取る。

（問）　設問１　Ａ君は次の問題を解答した。Ａ君の解答についてあなたの考えを書きなさい。

『問題』仕入原価￥５０，０００の時計に，仕入原価の３０％の利益を見込んで予定売価をつけましたが，予定価格の１０％引きで販売することにしました。利益額はいくらですか。

『Ａ君の解答』５８０００

（設問１の解答例）Ａ君が解答した値は実売価格であり，しかも値の先頭に￥（円マーク）がなく，コンマ（,）も書かれていない。

設問２　ビジネス計算の内容を取り扱った授業内（ビジネス計算における基礎・基本）で共有したことを書きなさい。

（設問２の解答例）①記数法に従って計算結果を丁寧に書く。（コンマ（,）と小数点（.）を正確に書くなど）

②計算結果を他人にわかりやすく説明できるよう工夫する。

③電卓を正しく使用する。（ゲーム機を扱うような持ち方（両手持ち）をしない等）

①～③の内容は，簿記の課題を解く際にも重要である。

商　業　科　事例２（簿記）
キーワード　「知識・技術」の評価，「思考・判断・表現」の評価

単元名	〔指導項目〕
簿記の概要	（１）簿記の原理 ア　簿記の概要 イ　簿記一巡の手続き ウ　会計帳簿

１　単元の目標

（１）企業活動の一連の流れを踏まえ，簿記の５大要素の特徴や要素の相互関係について理解しているとともに，貸借対照表と損益計算書を作成することができる。

（２）簿記の基礎概念として，簿記の５大要素が何かを思考し，それぞれの区分を適切に判断し，適切に表現できる。

（３）簿記の５大要素や貸借対照表，損益計算書について関心を示し，主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業活動の一連の流れを踏まえ，簿記の５大要素の特徴や要素の相互関係について理解しているとともに，貸借対照表と損益計算書を作成することができている。	簿記の基礎概念として，簿記の５大要素が何かを思考し，それぞれの区分を適切に判断することができ，適切に表現できている。	簿記の５大要素や貸借対照表，損益計算書について関心を示し，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　指導と評価の計画（１０時間）

時間	ねらい・学習活動	評価 観点	評価 記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（5時間）	資産・負債・純資産と貸借対照表			
	簿記の５大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し，勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。			
	・資産・負債・純資産の特徴を理解し，貸借対照表を作成する。	知	○	・企業活動の一連の流れを踏まえ，資産・負債・純資産の特徴や要素の相互関係について理解しているとともに，貸借対照表を作成することができている。 小単元テスト①
	・グループ活動にて，グループのメンバーと協働的に取り組み，提示された勘定科目を資産・負債・純資産に分類し，貸借対照表に記入する。			・記載された勘定科目を資産・負債・純資産へ適切に分類し，貸借対照表に適切に記入することができている。 パフォーマンス（観察①），ワークシート①・②
	・資産・負債・純資産の特徴や勘定科目の適切な分類の仕方，貸借対照表の作成方法について他グループへプレゼンテーション（説明）をする。	思	○	・他グループへわかりやすくプレゼンテーション（説明）をすることができている。 パフォーマンス（観察②），ワークシート④
第二次（5時間）	費用・収益と損益計算書			
	簿記の５大要素のうち，費用・収益の特徴を理解し，勘定科目を適切な要素に分類し，損益計算書を適切に作成することができる。			
	・費用・収益の特徴を理解し，損益計算書を作成する。	知	○	・企業活動の一連の流れを踏まえ，費用・収益の特徴や要素の相互関係について理解しているとともに，損益計算書を作成することができている。 小単元テスト②
	・グループ活動にて，グループのメンバーと協働的に取り組み，提示された勘定科目を費用・収益に分類し，損益計算書に記入する。			・記載された勘定科目を費用・収益に適切に分類し，損益計算書に適切に記入することができている。 パフォーマンス（観察(略)），ワークシート（略）
	・費用・収益の特徴や勘定科目の適切な分類の仕方，損益計算書の作成方法について他グループへプレゼンテーション（説明）をする。	思	○	・他グループへわかりやすくプレゼンテーション（説明）をすることができている。 パフォーマンス（観察(略)），ワークシート（略）

＜小単元の授業の流れ（５時間）＞

■１時間「インプット活動～簿記の概要について学ぶ～」（一斉）

① 簿記の５大要素（資産・負債・純資産）の特徴，貸借対照表の作成方法について学ぶ。
② ５時間に小単元テストがあることを知る。
③ 振り返りシートを記入し，自己の学習の取り組みについて振り返る。

↓

■２時間「アウトプット活動～問題を解こう～」（グループ）

① グループで協力し，学習課題に取り組む。
② 答え合わせをする。（先生に採点してもらう。）
③ 振り返りシートを記入し，自己の学習の取り組みについて振り返る。

↓

■３時間「アウトプット活動～プレゼンテーションの準備～」（グループ）

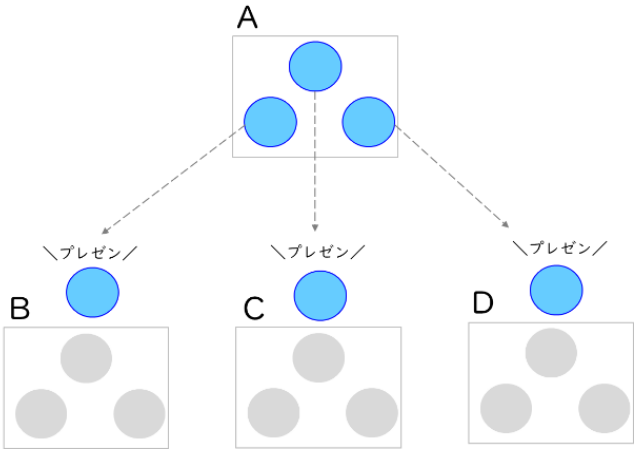
① 前時の学習課題を他グループにプレゼンテーションできるように，プレゼンテーション資料をまとめる。
※「ルーブリック（評価基準）」を確認し，プレゼンテーションの評価項目を明確にしておく。
② 振り返りシートを記入し，自己の学習の取り組みについて振り返る。

↓

■４時間「アウトプット活動～プレゼンテーション本番～」（グループ・個人）

① 学習課題を他グループにわかりやすくプレゼンテーション（説明）をする。
② プレゼンテーションの様子を相互評価する。
※「ルーブリック（評価基準）」を確認し，プレゼンテーションの評価項目を明確にしておく。
③ 振り返りシートを記入し，自己の学習の取り組みについて振り返る。

【プレゼンテーション方法】
グループ全員が，一人ずつ他グループへプレゼンテーションをする。



↓

■５時間「アウトプット活動～単元テスト～」（個人）

① 小単元テストを行う。
② 丸付けをする。（先生から配付された回答をもとに，自己採点をする。）
③ 間違えたところを確認する。（グループで確認し合う。わからなければ他グループと協力する。）
④ 振り返りシートを記入し，小単元における自己の学習の取り組み振り返りをする。

４　観点別学習状況の評価の進め方

（１）「知識・技術」の評価

ア　評価の進め方

本事例における「知識・技術」の評価規準は，「企業活動の一連の流れを踏まえ，簿記の５大要素の特徴や要素の相互関係について理解しているとともに，貸借対照表と損益計算書を作成することができている」ことである。高校へ入学し，初めて学ぶ科目であることから，生徒の身近なビジネスや事例を取り上げ，実際に行われている取引について生徒がイメージを持って学べるような工夫をする必要がある。また，協働的な学びの場を設け，簿記を学ぶ上で重要となる簿記の５大要素に関する知識や，貸借対照表の作成における技術を身に付けることをねらいとしている。

本時５時間では，授業展開１～４時間を経て，「資産・負債・純資産の特徴を適切に理解しているか」，「貸借対照表を適切に作成することができているか」を確認するため（資料１）小単元テスト①で評価をする。小単元テスト①の内容は，グループワークで取り扱った内容に加え，発展的な問題を取り入れて作問し，小単元テスト①を通して，生徒一人ひとりの小単元における理解度をはかる。

教員は，小単元テスト①の結果を確認し，生徒の理解度を確認するとともに，目標とする「知識・理解」の評価規準に満たない場合は，理解を促すため授業で補充を行ったり，今後の授業改善に生かしたりする。

＜５時間の評価方法＞

・ペーパーテスト（小単元テスト①）

「事実的な知識の習得を問う問題」と「知識の概念的な理解を問う問題」を出題し，評価する。

＜この小単元の授業展開＞※詳しくはP.３に詳細を記載。

1h 学ぶ（一斉） → **2h 問題解く**（グループ） → **3h プレゼン準備**（グループ） → **4h プレゼン本番**（グループ・個人） → **5h 小単元テスト**（個人）

評価のタイミング
知識・技術

（資料１）５時間で使用する小単元テスト①

20XX.XX.XX

簿記の原理「簿記の概要」（5時間）

小単元テスト①

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し，勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

①次の勘定科目は,「資産・負債・純資産」のどれにあたるか分類しなさい。

	勘定科目	要素			要素		勘定科目	要素
1	現金		7	普通預金※		13	未払金※	
2	買掛金		8	支払手形		14	受取手形	
3	資本金		9	土地		15	車両運搬具※	
4	借入金		10	建物		16	手形借入金※	
5	売掛金		11	定期預金※		17	当座預金※	
6	商品		12	未収金※		18	備品	

※はワークで取り扱わなかった勘定科目です。

(ヒント)※未収金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債権のこと。

※未払金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債務のこと。

※車両運搬具…営業用トラック・乗用車・オートバイなど。

②宮城商店の令和〇年12月31日における現在高によって,貸借対照表を作成しなさい。

【元帳勘定残高】

現金	300,000	支払手形	850,000	当座預金	600,000
売掛金	400,000	商品	550,000	買掛金	960,000
受取手形	500,000	車両運搬具	650,000	建物	800,000
土地	420,000	借入金	920,000	資本金	1,000,000

貸借対照表

令和〇年12月31日

( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )		
( )	( )		
( )	( )		
	( )		( )

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
(1)小単元・本時のゴールを達成できましたか?	A	B	C

(2)その理由を書きましょう。

先生コメント

(　　)年(　　)組(　　)番　氏名(　　)

イ　評価の実践事例

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
知識・技術	資産・負債・純資産の特徴や要素について理解しているとともに，貸借対照表を作成することができている。	企業活動の一連の流れを踏まえ，資産・負債・純資産の特徴や要素の相互関係について理解しているとともに，適切に貸借対照表を作成することができている。	資産・負債・純資産の特徴や要素について理解が乏しく，貸借対照表を作成することができていない。 【手立て】生徒において身近な事例を取り上げ，分類の確認をする。貸借対照表の作成方法についても，再度一緒に確認をする。

○「おおむね満足できる状況（B評価）」の記述例

①

	勘定科目	要素			要素		勘定科目	要素
1	現金	資産	7	普通預金※	資産	13	未払金※	負債
2	買掛金	負債	8	支払手形	負債	14	受取手形	負産
3	資本金	純資産	9	土地	資産	15	車両運搬具※	純資産
4	借入金	負債	10	建物	資産	16	手形借入金※	資産
5	売掛金	資産	11	定期預金※	負債	17	当座預金※	資産
6	商品	資産	12	未収金※	負債	18	備品	資産

※はワークで取り扱わなかった勘定科目です。

(ヒント)※未収金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債権のこと

※未払金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債務のこと

※車両運搬具…営業用トラック・乗用車・オートバイなど

13/18 check!!

もう少しで完璧!!

②

貸借対照表

令和○年12月31日

現金	300,000	支払手形	850,000
当座預金	600,000	借入金	920,000
受取手形	500,000	車両運搬具	650,000
売掛金	400,000	資本金	1,000,000
建物	800,000	当期純利益	1,110,000
土地	420,000		
商品	550,000		
買掛金	960,000		
	4,530,000		4,530,000

10/14 check!!

ほとんどok 一部、確認しよう~

「おおむね満足できる状況（B評価）」の評価について

①の問いでは，グループワークで取り組んだ勘定科目の分類について「おおむね正解」している状態。また，それ以外の発展問題※については，７問中５～７問正解で「A」，２～４問正解で「B」，０～１問正解で「C」と判断する。

②の問いでは，資産・負債・純資産を分類して貸借対照表に記入，計算がおおむねできた状態を「おおむね満足できる状況（B評価）」として評価した。

○「十分満足できる状況（A評価）」の記述例

①

	勘定科目	要素			要素		勘定科目	要素
1	現金	資産	7	普通預金※	資産	13	未払金※	負債
2	買掛金	負債	8	支払手形	負債	14	受取手形	資産
3	資本金	純資産	9	土地	資産	15	車両運搬具※	資産
4	借入金	負債	10	建物	資産	16	手形借入金※	負債
5	売掛金	資産	11	定期預金※	資産	17	当座預金※	資産
6	商品	資産	12	未収金※	資産	18	備品	資産

※はワークで取り扱わなかった勘定科目です。

(ヒント)※未収金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債権のこと

※未払金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債務のこと

※車両運搬具…営業用トラック・乗用車・オートバイなど

18/18 good

すばらしい すごい!!

②

貸借対照表

令和○年12月31日

(現金)	(300,000)	(支払手形)	(850,000)
(当座預金)	(600,000)	(買掛金)	(960,000)
(受取手形)	(500,000)	(借入金)	(920,000)
(売掛金)	(400,000)	(資本金)	(1,000,000)
(商品)	(550,000)	(当期純利益)	(490,000)
(車両運搬具)	(650,000)		
(建物)	(800,000)		
(土地)	(420,000)		
	(4,220,000)		(4,220,000)

14/14 good

すばらしい

「十分満足できる状況（A評価）」の評価について

①の問いでは，グループワークで取り組んだ勘定科目の分類について「すべて正解」している状態。また，それ以外の発展問題※については，７問中５～７問正解で「A」，２～４問正解で「B」，０～１問正解で「C」と判断する。

②の問いでは，資産・負債・純資産を適切に分類して貸借対照表に記入，計算ができた状態を「十分満足できる状況（A評価）」として評価とする。

（２）「思考・判断・表現」の評価

ア　評価の進め方

本事例における「思考・判断・表現」による評価規準は「簿記の基礎概念として，簿記の５大要素が何かを思考し，それぞれの区分を適切に判断し，適切に表現している」ことである。簿記を学ぶ上で，重要となってくる簿記の５大要素の分類については，適切な判断力を身に付ける必要がある。そこで，グループ活動を通して協働的に学ぶことで，企業活動の一連の流れを把握し，自分の意見を述べたり，相手の意見を聞いたりしながら，資産・負債・純資産の特徴を認識し，今後の簿記の学習において生きて働く思考力・判断力・表現力を身に付けることをねらいとしている。

２時間は，（資料２）ワークシートを活用してグループ活動を行い，学習内容について生徒が協働的に学び，自己の考えや他の考えを深めながら思考する過程で，適切な判断力や表現力を養う。その際，教員は生徒に（資料２）ワークシートに記載してある（資料３）「ルーブリック（評価基準）」を提示し，説明した上で生徒のパフォーマンス（グループ活動の様子）を観察して評価をする旨を生徒に伝え，（資料６）教員用評価シートにて評価をする。これはあくまで，「生徒の良い部分を評価し，さらに伸長させるため」であり，生徒が活動中にだらけないように監視をするため等のネガティブな意味はないため，教員からそういった発言をしないように留意する。

３時間は，２時間に取り組んだ内容（資料２）ワークシートの内容を他グループへ発表するための準備を行う。他人にプレゼンテーション（説明）をすることで，目標としている評価規準の「知識・技術」や「思考・判断・表現」の定着をめざす。また，生徒の良い面を評価するため（資料４）「ルーブリック表（評価基準）」を提示し，この基準のもと次回の授業（４時間）では，パフォーマンス（プレゼンテーション）の様子を観察して評価をする旨を生徒に伝える。

本時４時間では，２～３時間の（資料２）ワークシートを題材として，グループ活動を通して得た「知識・技術」をもとに，資産・負債・純資産の適切な分類方法や，貸借対照表の作成方法について，本時４時間のパフォーマンス（プレゼンテーション）を観察して評価をする。その際，グループで発表者が偏ることがないように，全員が発表者となるような発表形態で行う。また，生徒は（資料５）ワークシートを用いて相互評価を行い，相手のプレゼンテーションについて評価するとともに，主体的に取り組む態度の素地となる「自らの学習を調整したり，粘り強く取り組もうとしたりする態度」を身に付けるために必要なメタ認知を高めるため，自己評価を行う。教員は，全員の発表を確認できるようｉＰａｄ等で動画を撮影する。プレゼンテーションのパフォーマンス評価については，３時間の授業であらかじめ（資料４）「ルーブリック（評価基準）」を提示し，評価項目を明確にしておく。また，即時での評価が難しいことから，教員はプレゼンテーションの様子をｉＰａｄ等で撮影し，授業後に視聴して評価を行う。その際，（資料７）教員用評価シートにて評価を行う。授業担当者が複数いる場合，最終的な評価は，教員の人数に応じて平均値を算出するが，「ＡとＣ」で評価が分かれた場合等を想定し，組み合わせの評価例を決めておく必要がある。

＜４時間の評価方法＞

・パフォーマンス評価（プレゼンテーションを観察）

「小単元の評価規準」と「ルーブリック表（評価基準）」にもとづき，観察して評価をする。

・ペーパーテスト（小単元テスト）

簿記の５大要素を分類する際の判断理由を問う「記述問題」を出題し，評価する。

＜この小単元での授業展開＞※詳しくはP.３に詳細を記載。

1h 学ぶ（一斉）	→	2h 問題解く（グループ）	→	3h プレゼン準備（グループ）	→	4h プレゼン本番（グループ・個人）	→	5h 小単元テスト（個人）

評価のタイミング②

思考・判断・表現

（資料２）２～３時間で活用するワークシート①（１班の場合）

20XX.XX.XX

簿記の原理「簿記の概要」（2時間）

ワークシート②

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し，勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

本時のゴール
①グループごとに勘定科目を適切に分類し，貸借対照表を作成できる！ **②その理由を説明できる！**

【グループ活動の評価基準】 👀チェックするよ～👀

評価項目／評価	B	A	C
協調性	グループのメンバーとコミュニケーションをとりながら，問題を解くことができる。	グループのメンバーと広くコミュニケーションをとりなら，問題を解くことができる。	グループのメンバーとコミュニケーションをとることができず，問題を解くことができない。

①次の勘定科目は，資産・負債・純資産のうちどの分類になるか考えよう！

①の理由

②の理由

③の理由

②宮城商店の令和〇年12月31日における現在高によって，貸借対照表を作成しなさい。

【元帳勘定残高】

現金 ¥200,000　売掛金¥100,000　商　品¥300,000　資本金 ¥100,000
備品 ¥400,000　買掛金 ¥500,000　借入金¥350,000

貸 借 対 照 表

令和〇年12月31日

(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	(　　)		(　　)

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
(1) 本時のゴールを達成できましたか？	A	B	C

(2) その理由を書きましょう。

先生コメント

(　　) 年 (　　) 組 (　　) 番　氏名 (　　)

（資料３）２時間で生徒に提示するルーブリック表

【パフォーマンス評価（グループ活動）で使用する「ルーブリック表（評価基準）」】

評価項目／評価	B	A	C
協調性	グループのメンバーとコミュニケーションをとりながら，問題を解くことができる。	グループのメンバーと広くコミュニケーションをとりなら，問題を解くことができる。	グループのメンバーとコミュニケーションをとることができず，問題を解くことができない。

（資料４）３～４時間で生徒に提示するルーブリック表

【パフォーマンス評価（プレゼンテーション）で使用する「ルーブリック表（評価基準）」】

評価項目／評価	B	A	C
表現力 （発表）	相手に伝わるように発表している。	相手に伝わるように工夫して，わかりやすく発表している。	発表がわかりづらい。

（資料５） ４時間で使用するワークシート④

20XX.XX.XX（別紙資料4）

簿記の原理「簿記の概要」（4 時間）

ワークシート④

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し， 勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

本時のゴール
資産・負債・純資産の特徴と貸借対照表の作成方法について，説明できる！

【プレゼンテーションの評価基準】 👀チェックするよ～👀

①評価項目／評価	B	A	C
表現力 （発表）	相手に伝わるよう発表している。	相手に伝わるように工夫して，わかりやすく発表している。	発表がわかりづらい。

【相互評価シート】

班	名前	評価	コメント（理由）
1		A ・ B ・ C	
2		A ・ B ・ C	
3		A ・ B ・ C	
4		A ・ B ・ C	

メモ
ためになる！など良かったことは，メモをとろう！

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
（1）本時のゴールを達成できましたか？	A	B	C

（2）その理由を書きましょう。

先生コメント

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

（資料６） ２時間で使用する教員用評価シート

20XX.XX.XX（別紙資料6）

簿記の原理「簿記の概要」（2~~1~~時間）

ワークシート②

教員用評価シート

本時のゴール
①グループごとに勘定科目を適切に分類し，貸借対照表を作成できる！ ②その理由を説明できる！

【グループ活動の評価基準】 👀チェックするよ～👀

評価項目／評価	B	A	C
協調性	グループのメンバーとコミュニケーションをとりながら，問題を解くことができる。	グループのメンバーと広くコミュニケーションをとりなら，問題を解くことができる。	グループのメンバーとコミュニケーションをとることができず，問題を解くことができない。

【評価シート】

班	名前	評価	コメント（理由）
1		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
2		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
3		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
4		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	

メモ

評 価 者（　　）

（資料７） ４時間で使用する教員用評価シート

20XX.XX.XX（別紙資料7）

簿記の原理「簿記の概要」（4 時間）

ワークシート④

教員用評価シート

本時のゴール
資産・負債・純資産の特徴と貸借対照表の作成方法について，説明できる！

評価	B	A	C
思考・判断・表現	記載された勘定科目を，資産・負債・純資産におおむね適切に分類し，表現することができている。	記載された勘定科目について，勘定科目と資産・負債・純資産の関連性を見いだし，適切に分類するとともに表現することができている。	記載された勘定科目を，資産・負債・純資産に適切に分類し，表現することができていない。【手立て】簿記の5大要素の特徴について個別に声掛けを行い，確認する。

評価項目／評価	B	A	C
表現力（発表）	相手に伝わるよう発表している。	相手に伝わるように工夫して，わかりやすく発表している。	発表がわかりづらい。

【評価シート】

班	名前	評価	コメント（理由）
1		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
2		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
3		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
4		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	

メモ

評 価 者（　　）

イ　評価の実践事例

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	記載された勘定科目を，資産・負債・純資産におおむね適切に分類し，表現することができている。	記載された勘定科目と，資産・負債・純資産の関連性を見いだし，適切に分類するとともに表現することができている。	記載された勘定科目を，資産・負債・純資産を分類し，表現することができていない。 【手立て】簿記の５大要素の特徴について個別に声掛けを行い，確認する。

【パフォーマンス評価（プレゼンテーション）で使用する「ルーブリック表（評価基準）」】

評価項目／評価	B	A	C
表現力 （発表）	相手に伝わるように発表している。	相手に伝わるように工夫して，わかりやすく発表している。	発表がわかりづらい。

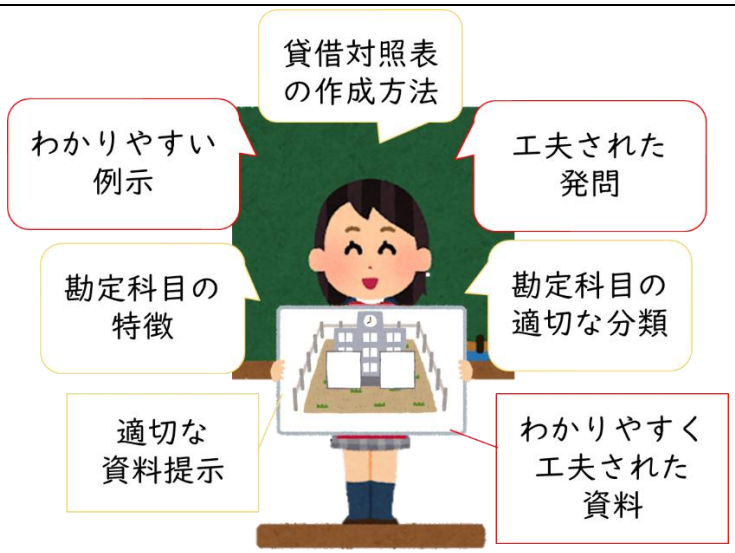
○「おおむね満足できる状況（B評価）」の発表例

（図１）

「おおむね満足できる状況（B評価）」の理由

プレゼンテーションのなかで，（図１）のように「記載された勘定科目を，資産・負債・純資産におおむね適切に分類し，表現することができている」こと，またプレゼンテーションにおいて「ルーブリック表（評価基準）」をもとに「相手に伝わるように発表している」生徒を，「おおむね満足できる状況（B評価）」と評価する。

○「十分満足できる状況（A評価）」の発表例



（図２）

「十分満足できる状況（A評価）」の評価について

プレゼンテーションのなかで，（図２）のように「記載された勘定科目と，資産・負債・純資産の関連性を見いだし，適切に分類するとともに表現することができている」こと，またプレゼンテーションにおいて「ルーブリック表（評価基準）」をもとに「相手に伝わるように工夫して，わかりやすく発表している」生徒を，「十分満足できる状況（A評価）」と評価する。

５　観点別学習状況の評価の総括

（１）単元における観点ごとの評価の総括

ＳＴＥＰ１　単元における観点別評価の総括方法を決める。

ここでは，観点別評価における評価結果のＡ，Ｂ，Ｃの個数が一番多い評価を最もよく表現しているものとして判断する。また，二期制（４月から９月までを前期，１０月から３月までを後期）を想定している。

ＳＴＥＰ２　単元における「考査以外の指導と観点別評価の計画」を立てる。

※ ここでは「（１）簿記の原理　ア簿記の概要」のみの評価を記載。

※ 実際には「（１）簿記の原理　ア簿記の概要，イ簿記の一巡，ウ会計帳簿」までで単元の総括になる。

【考査以外の指導と観点別評価の計画】

		今回取り扱っている部分							今回取り扱っていない部分						
授業時数		1	2		3	4		5	6	7		8	9		10
評価機会		－	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
生徒名	評価方法・評価の観点	ワークシート①	パフォーマンス（観察①グループ）	ワークシート②	ワークシート③	ワークシート④	パフォーマンス（観察②発表）	小単元テスト①	ワークシート（略）	パフォーマンス（観察（略）グループ）	ワークシート（略）	ワークシート（略）	ワークシート（略）	パフォーマンス（観察（略）発表）	小単元テスト②
	知	－						●	－						●
	思	－		●			●		－		●			●	
	主	○	●	○	○	●	●		○	●	○	○	●	●	

●評定に用いる評価　○自己評価を通して学習改善につなげる評価

※「主体的に取り組む態度」の評価について

ここでは，「知識・技術」と「思考・判断・表現」の２観点に重きを置いて学習評価を作成しているが，実際の授業では観察や自己評価シート等で「主体的に取り組む態度」に関しても評価をする。生徒と教員は，授業を通してメタ認知能力を高めるため，生徒は自己評価や発表の機会では相互評価を行い，主体的に取り組む態度（粘り強い取り組みを行おうとする側面，自らの学習を調整しようとする側面）を助長させる。また，教員は生徒の自己評価を確認し，今後の授業改善に生かす。

ＳＴＥＰ３　単元ごとに「考査以外の観点別評価の総括」をする。

※ ここでは「（１）簿記の原理　ア簿記の概要」のみの評価を記載。

※ 実際には「（１）簿記の原理　ア簿記の概要，イ簿記の一巡，ウ会計帳簿」までで単元の総括になる。

【考査以外の観点別評価における組み合わせの例】

観点別評価の組み合わせ例	単元評価
aaaa，aaab，aaac	A
bbbb，aabb，abbb，bcbb，aacc	B
cccc，accc，bbcc，abcc	C

※ aabb は「B」，aacc は「B」，bbcc は「C」と評価する。

【考査以外の観点別評価の実践事例】

		今回取り扱っている部分							今回取り扱っていない部分							
授業時数		1	2		3	4		5	6	7		8	9		10	
評価機会		－	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
生徒名	評価方法・評価の観点	ワークシート①	パフォーマンス（観察①グループ）	ワークシート②	ワークシート③	ワークシート④	パフォーマンス（観察③発表）	小単元テスト①	ワークシート	パフォーマンス（観察（略）グループ）	ワークシート（略）	ワークシート（略）	ワークシート（略）	パフォーマンス（観察（略）発表）	小単元テスト②	観点別評価
生徒あ	知	－			－			a	－			－			a	A
	思	－		b	－		a		－		a	－		a		A
	主	－	a		－	a	a		－	b		－	b	a		A
生徒い	知	－			－			b	－			－			b	B
	思	－		b	－		b		－		b	－		b		B
	主	－	b		－	a	a		－	c		－	b	b		B

ＳＴＥＰ４　前期中間における観点別評価の総括をする。

【前期中間（考査以外＋考査）における観点別評価の実践事例】

生徒名	評価機会	考査以外①			考査①	前期中間観点別評価
	観点＼小単元	ア	イ	ウ	前期中間考査	
生徒あ	知識・技術	A	B	B	ＡＡＢＢ	B
	思考・判断・表現	A	B	A	ＡＡＢ	A
	主体的に取り組む態度	A	A	A	―	A
生徒い	知識・技術	B	C	B	ＢＣＢＣ	B
	思考・判断・表現	B	B	C	ＢＣＡ	B
	主体的に取り組む態度	B	A	A	―	A

※　考査に関しては，「知識・技術」と「思考・判断・表現」を問う問題を出題している。

（２）学期末における観点ごとの評価の総括

ＳＴＥＰ５　学期末における観点別評価の総括をする。

【学期末における観点別評価における組み合わせの例】

観点別評価の組み合わせ	学期評価
ＡＡ	A
ＡＢ，ＢＢ，ＡＣ，ＢＣ	B
ＣＣ	C

【学期末における観点別評価の実践事例】

生徒名	観点＼考査	前期中間	前期期末	前期
生徒あ	知識・技術	B	A	B
	思考・判断・表現	A	A	A
	主体的に取り組む態度	A	A	A
生徒い	知識・技術	B	B	B
	思考・判断・表現	B	B	B
	主体的に取り組む態度	A	C	B

前期中間と前期期末の観点別評価を総括して，前期の評価を出す。

（３）学年末における観点別評価の評定への総括

ＳＴＥＰ６　生徒ごとに観点別評価（Ａ，Ｂ，Ｃ）を整理し，学年末評価（５段階）を行う。

【学年末の観点別評価における組み合わせの例（５段階評定への総括）】

観点別評価の組み合わせ	学年末評価
ＡＡＡ	5
ＡＡＢ	4
ＡＢＢ，ＡＡＣ，ＡＢＣ，ＡＣＣ，ＢＢＢ，ＢＢＣ	3
ＢＣＣ	2
ＣＣＣ	1

【学年末における観点別評価の実践事例】

生徒名	観点＼考査	前期中間	前期期末	前期	後期中間	後期期末	後期	観点別評価	学年末評定
生徒あ	知識・技術	B	A	A	A	A	A	A	4
	思考・判断・表現	A	A	A	A	A	A	A	
	主体的に取り組む態度	A	A	A	B	B	B	B	
生徒い	知識・技術	B	B	B	B	A	B	B	3
	思考・判断・表現	B	B	B	A	B	B	B	
	主体的に取り組む態度	A	C	B	B	C	B	B	

①前期と後期の観点別評価を総括して，学年末の観点別評価を出す。

②学年末の観点別評価をもとに，学年末評定を出す。

ワークシートの具体例

別紙資料１　ワークシート①
別紙資料２　ワークシート②
別紙資料３　ワークシート③
別紙資料４　ワークシート④
別紙資料５　小単元テスト①
別紙資料６　教員用評価シート（２時間）
別紙資料７　教員用評価シート（４時間）

定期考査（評価問題）の具体例

（１）「知識・技能」を問う考査問題例

（問題用紙）

【問１】みやぎ商店における令和〇年１２月３１日における現在高によって，貸借対照表を作成しなさい。

（元帳勘定残高）

現金	770,000	支払手形	650,000	当座預金	500,000
売掛金	350,000	受取手形	400,000	買掛金	760,000
商品	700,000	備品	850,000	建物	800,000
土地	700,000	借入金	990,000	資本金	500,000

（解答用紙）

貸借対照表

令和〇年１２月３１日

（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）		
（　　）	（　　）		
（　　）	（　　）		
	（　　）		（　　）

解答例

（問題用紙）

（解答用紙）

貸借対照表

令和〇年１２月３１日

（現金）	（770,000）	（支払手形）	（650,000）
（当座預金）	（500,000）	（買掛金）	（760,000）
（受取手形）	（400,000）	（借入金）	（990,000）
（売掛金）	（350,000）	（資本金）	（500,000）
（商品）	（700,000）	（当期純利益）	（2,170,000）
（備品）	（850,000）		
（土地）	（700,000）		
（建物）	（800,000）		
	（5,070,000）		（5,070,000）

（２）「思考・判断・表現」を問う考査問題例

（問題用紙）

【問１】

①簿記の5大要素のうち,「資産」「負債」「純資産」の特徴について述べなさい。

②語群にある勘定科目を適切な要素（資産・負債・純資産）に分類し,記入しなさい。

<語群> 現 金　売掛金　土 地　支払手形　買掛金　商品　車両運搬具　借入金　当座預金
建物　普通預金　資本金　未収金　未払金　手形借入金　受取手形

（解答用紙）

【問１】

①
資 産とは（　　）
負 債とは（　　）
純資産とは（　　）

②
資産の勘定科目
負債の勘定科目
純資産の勘定科目

解答例

（解答用紙）

【問１】

①
資 産とは（ **将来,一定金額を受け取るなどの財貨や債権などのこと。** ）
負 債とは（ **将来,一定金額を支払わなければいけないなどの義務がある債務のこと。** ）
純資産とは（ **資産から負債を引いたもの 。** ）

②
資産の勘定科目
現金 売掛金 受取手形 土地 商品 当座預金 建物 普通預金 未収金 車両運搬具
負債の勘定科目
支払手形 借入金 買掛金 未払金 手形借入金
純資産の勘定科目
資本金

簿記の原理「簿記の概要」（１時間）

ワークシート①

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し， 勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

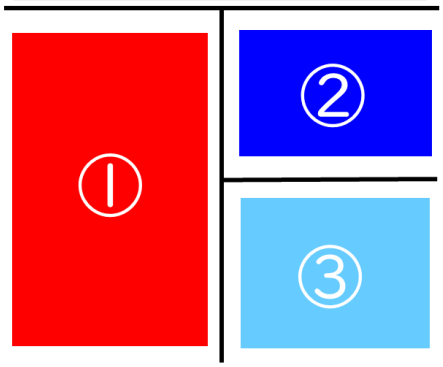
本時のゴール
資産・負債・純資産の特徴に触れ、貸借対照表の作成方法を知る！

ご だ い よ う そ

簿記の（　　）

しさん	ふさい	じゅんしさん	ひよう	しゅうえき
①	②	③	④	⑤

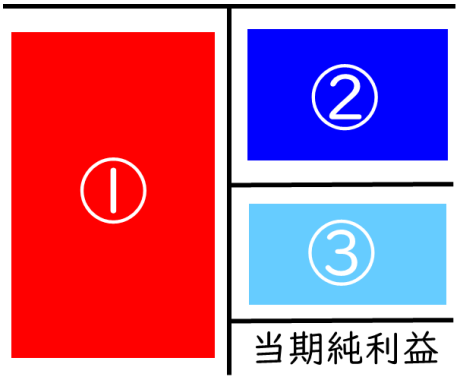
たいしゃくたいしょうひょう



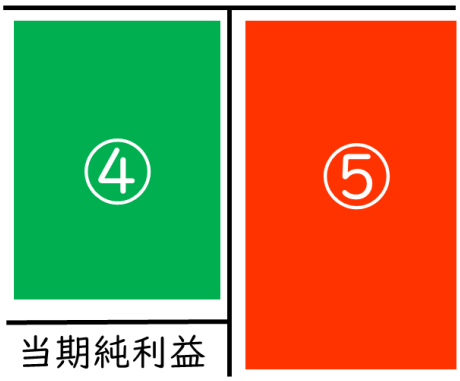
（期首）

そんえきけいさんしょ

↓



（期末）



（期末）

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
（１）本時のゴールを達成できましたか？	A	B	C

（２）その理由を書きましょう。

先生コメント

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

簿記の原理「簿記の概要」（2時間）

ワークシート②

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し， 勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

本時のゴール
①グループごとに勘定科目を適切に分類し，貸借対照表を作成できる！ ②その理由を説明できる！

【グループ活動の評価基準】 👀チェックするよ～👀

評価項目／評価	B	A	C
協調性	グループのメンバーとコミュニケーションをとりながら，問題を解くことができる。	グループのメンバーと広くコミュニケーションをとりなら，問題を解くことができる。	グループのメンバーとコミュニケーションをとることができず，問題を解くことができない。

①次の勘定科目は、資産・負債・純資産のうちどの分類になるか考えよう！

①の理由

②の理由

③の理由

②宮城商店の令和〇年12月31日における現在高によって、貸借対照表を作成しなさい。

【元帳勘定残高】

現金 ¥200,000	売掛金¥100,000	商　品¥300,000	資本金 ¥100,000
備品¥400,000	買掛金 ¥500,000	借入金¥350,000	

貸 借 対 照 表

令和〇年12月31日

( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
	( )		( )

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
(1)本時のゴールを達成できましたか？	A	B	C

(2)その理由を書きましょう。

先生コメント

(　　)年(　　)組(　　)番　氏名(　　)

簿記の原理「簿記の概要」（3時間）

ワークシート③

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し， 勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

本時のゴール
資産・負債・純資産の特徴と貸借対照表の作成方法について，説明できる！

【プレゼンテーションの方法】について

iPad、紙、ペン、ホワイトボードを準備するので、各自やりやすいプレゼンテーションの方法をとってください。

【プレゼンテーションの評価基準】 👀チェックするよ～👀

①評価項目／評価	B	A	C
表現力 （発表）	相手に伝わるよう発表している。	相手に伝わるように工夫して、わかりやすく発表している。	発表がわかりづらい。

①「ワークシート②」について，どのように説明するか，アイディアを考えよう！

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
（1）本時のゴールを達成できましたか？	A	B	C

（2）その理由を書きましょう。

先生コメント

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

簿記の原理「簿記の概要」（5時間）

小単元テスト①

小単元のゴール
簿記の5大要素のうち，資産・負債・純資産の特徴を理解し， 勘定科目を適切な要素に分類し，貸借対照表を適切に作成することができる。

①次の勘定科目は、「資産・負債・純資産」のどれにあたるか分類しなさい。

	勘定科目	要素			要素		勘定科目	要素
1	現金		7	普通預金※		13	未払金※	
2	買掛金		8	支払手形		14	受取手形	
3	資本金		9	土地		15	車両運搬具※	
4	借入金		10	建物		16	手形借入金※	
5	売掛金		11	定期預金※		17	当座預金※	
6	商品		12	未収金※		18	備品	

※はワークで取り扱わなかった勘定科目です。

(ヒント)※未収金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債権のこと。

※未払金…商品売買以外の取引から生じた一時的な債務のこと。

※車両運搬具…営業用トラック・乗用車・オートバイなど。

②宮城商店の令和〇年12月31日における現在高によって、貸借対照表を作成しなさい。

【元帳勘定残高】

現金	300,000	支払手形	850,000	当座預金	600,000
売掛金	400,000	商品	550,000	買掛金	960,000
受取手形	500,000	車両運搬具	650,000	建物	800,000
土地	420,000	借入金	920,000	資本金	1,000,000

貸借対照表

令和〇年12月31日

（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）		
（　　）	（　　）		
（　　）	（　　）		
	（　　）		（　　）

自己評価シート

	とてもできた	できた	できなかった
（1）小単元・本時のゴールを達成できましたか？	A	B	C

（2）その理由を書きましょう。

先生コメント

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

簿記の原理「簿記の概要」（2時間）

ワークシート②

教員用評価シート

本時のゴール
①グループごとに勘定科目を適切に分類し，貸借対照表を作成できる！ ②その理由を説明できる！

【グループ活動の評価基準】 👀チェックするよ～👀

評価項目／評価	B	A	C
協調性	グループのメンバーとコミュニケーションをとりながら，問題を解くことができる。	グループのメンバーと広くコミュニケーションをとりなら，問題を解くことができる。	グループのメンバーとコミュニケーションをとることができず，問題を解くことができない。

【評価シート】

班	名前	評価	コメント（理由）
1		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
2		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
3		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
4		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	

メモ

評 価 者（　　）

簿記の原理「簿記の概要」（4 時間）

ワークシート④

教員用評価シート

本時のゴール
資産・負債・純資産の特徴と貸借対照表の作成方法について，説明できる！

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	記載された勘定科目を，資産・負債・純資産におおむね適切に分類し，表現することができている。	記載された勘定科目について，勘定科目と資産・負債・純資産の関連性を見いだし，適切に分類するとともに表現することができている。	記載された勘定科目を，資産・負債・純資産に適切に分類し，表現することができていない。 【手立て】簿記の5大要素の特徴について個別に声掛けを行い，確認する。

評価項目／評価	B	A	C
表現力 （発表）	相手に伝わるよう発表している。	相手に伝わるように工夫して、わかりやすく発表している。	発表がわかりづらい。

【評価シート】

班	名前	評価	コメント（理由）
1		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
2		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
3		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
4		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	
		A ・ B ・ C	

メモ

評 価 者（　　）

商　業　科　事例３（情報処理）
キーワード　「思考・判断・表現」の評価，「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名	〔指導項目〕
情報セキュリティの確保と法規	（２）コンピュータシステムと情報通信ネットワーク ア　コンピュータシステムの概要 イ　情報通信ネットワークの仕組みと構成 ウ　情報通信ネットワークの活用 エ　情報セキュリティの確保と法規

１　単元の目標

（１）企業における情報セキュリティの確保と法規について実務での活用に即して理解するとともに，関連する技術を身に付ける。

（２）企業における情報セキュリティの確保と法規に関する課題を発見し，それを踏まえ，科学的な根拠に基づいて，情報を収集し管理する方策を考案して実施し，評価・改善する。

（３）企業における情報セキュリティの確保と法規について自ら学び，適切な情報の収集と管理に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における情報セキュリティの確保と法規について実務での活用に即して理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。	企業における情報セキュリティの確保と法規に関する課題を発見し，それを踏まえ，科学的な根拠に基づいて，情報を収集し管理する方策を考案して実施し，評価・改善している。	企業における情報セキュリティの確保と法規について自ら学び，適切な情報の収集と管理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　指導と評価の計画（２時間）

時間	【ねらい】・学習活動	評価 観点	評価 記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（1時間）	情報セキュリティの確保と法規① 情報セキュリティを確保することの重要性について考察する。 ・　適切な情報の管理について，不正アクセスやデータの改ざんなどの危険性を踏まえて考察する。 ・　マルウェアについて，種類や危険性及び最近の被害ニュースなどをインターネットで調べ，グループで発表する。 ・　情報セキュリティを確保することの重要性について，法規を踏まえて考察し，グループで発表する。	態 知 思	○	・　適切な情報の管理について，情報技術に関する危険性を踏まえ，主体的に考察しようとしている。 観察・ワークシート① ・　マルウェアと関連する法規と罪について自ら学び，グループワークに積極的に参加し，協働的に取り組もうとしている。 観察・ワークシート① ・　情報セキュリティの確保と法規に関する課題を発見し，情報セキュリティを確保することの重要性について考察し，表現している。 観察・ワークシート①
第一次（1時間）	情報セキュリティの確保と法規② 情報セキュリティを確保するための基礎的な方法について考察する。 ・　企業における情報セキュリティの確保について，企業活動と関連付けて考察し，グループで発表する。 ・　企業における被害の具体的な事例を基に，情報セキュリティを確保するための基礎的な方法を考察し，グループで発表する。	態 思	○ ○	・　学習した内容を踏まえ，企業における情報セキュリティを確保することの重要性について考察し，グループワークに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察・ワークシート② ・　情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現し，評価・改善している。 観察・ワークシート②

４　観点別学習状況の評価の進め方

（１）「思考・判断・表現」の評価

ア　評価の進め方

本事例における「思考・判断・表現」の評価規準は，「企業における情報セキュリティの確保と法

規に関する課題を発見し，それを踏まえ，科学的な根拠に基づいて，情報を収集し管理する方策を考案して実施し，評価・改善している」ことである。

本事例では，思考・判断・表現を見取るために，生徒自らの考えと他の生徒たちの意見や発表からの「気付き」及び「あらためて整理する」に対するワークシートへの記述で評価する。

＜授業展開＞（３　指導と評価の計画の太枠部分）

①情報セキュリティの不十分な企業が抱える危険性や周りへの影響について事例を通して考える。
②個人で考える　→　グループワーク　→　発表（グループワークや発表で気付いたことをメモする。）
③事例に対する危険性や影響について，あらためて整理してワークシートへ記述する。
④事例に対して，どのような対策や対応が必要になるのかを調べながら考える。
⑤個人で考える　→　グループワーク　→　発表（グループワークや発表で気付いたことをメモする。）
⑥情報セキュリティを確保するための基礎的な方法について，あらためて整理してワークシートへ記述する。

イ　評価の実践事例

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現し，評価・改善している。	情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現し，評価・改善しているとともに課題についても言及している。	情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現することが不十分であり，評価・改善に取り組んでいない。 【手立て】 机間指導でヒントを与え，考察すべき事項とそれに基づいた評価・改善方法について気付かせる。

資料３のワークシート②を用いて，企業における被害の具体的な事例を基に，情報セキュリティを確保するための基礎的な方法を考察し，評価・改善に取り組む。

ここでは，ワークシートで提示した事例①から③に対して，対策や対応を個人で考え，他の生徒たちの意見や発表からの気付きを踏まえながら，あらためて整理する過程において「情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現し，評価・改善している」ことを評価規準とする。

ワークシートの「事例①から③に対して，どのような対策や対応が必要になるのかを調べながら考えましょう」の生徒自らの考えと他の生徒たちの意見や発表からの「気付き」及び「あらためて整理する」の記述から情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現し，評価・改善しているかを評価する。

【資料３　ワークシート②】

今日の目標：情報セキュリティを確保するための基礎的な方法について考えてみよう。

事例	内容
①	企業情報が保存されているＵＳＢメモリが紛失した事件。
②	企業に送付されてきたメールの添付ファイルを開いたことで，パソコンに保存していた文書作成ソフトウェアのファイルが勝手に暗号化され，ファイル複合のために代金を請求された事件。
③	企業に所属する社員のＳＮＳに，ある人物が勝手にログインをして，社内情報や個人情報及びプライベート写真のデータを盗み取った事件。

【事例①から③に対して，どのような対策や対応が必要になるのかを調べながら考えましょう。】

事例	自分の考え →	グループ内の意見で気付いたこと →	他グループの発表で気付いたこと
①	＜記述例＞ ・ＵＳＢメモリを使わない。 ・大事な情報はＵＳＢメモリに保存しない。 ・ＵＳＢメモリは鍵付きの保管庫に入れる。	＜記述例＞ ・暗号化対応のＵＳＢメモリを使用する。 ・データにパスワードを設定して保存する。 ・ＵＳＢメモリ管理簿をチェックする。	＜記述例＞ ・企業内の入退室チェックができる体制づくり。 ・盗難事件として警察に連絡する。

【他の生徒たちの意見や発表を聞いて，気付いたことや分かったことを踏まえ，上記の事例①から③の事件が発生したら，どのような対策や対応が必要になるのかを，あらためて整理して記述しましょう】

事例	内容
①	＜記述例＞ ＵＳＢメモリはデータの持ち運びが手軽で便利ではあるが，紛失の可能性が高いため，ＵＳＢメモリには大事な情報は保存しないようにする。使用する場合は，暗号化対応のＵＳＢメモリを使用したり，データにパスワードを設定したりして，厳重に管理することが必要である。また，不審な人物のチェックができるように，警備システムの導入など，企業内や室内の入退室チェックができる体制づくりを検討する。対応としては，管理簿で持ち出し等の確認をし，確認ができなければ，盗難の可能性もあるので警察に被害届けを提出することを検討する。

＜ワークシートによる評価＞

【他の生徒たちの意見や発表を聞いて，気付いたことや分かったことを踏まえ，上記の事例①から③の事件が発生したら，どのような対策や対応が必要になるのかを，あらためて整理して記述しましょう】

○「おおむね満足できる」状況（Ｂ評価）の記述例（事例①）

ＵＳＢメモリには，大事な情報は保存しないようにする。使用する場合は，暗号化対応のＵＳＢメモリを使用したり，データにパスワードを設定したりして，厳重に管理することが必要である。また，不

審な人物のチェックができるように，企業内や室内の入退室チェックができる体制づくりを検討する。対策としては，管理簿で持ち出しのチェックを行い，それでも分からなければ，警察に相談することを検討する。

○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例（事例①）

ＵＳＢメモリはデータの持ち運びが手軽で便利ではあるが，紛失の可能性が高く，ファイルが開けないなどの不具合も生じることがあるため，大事な情報は保存しないようにする。使用する場合は，必要に応じて暗号化対応のＵＳＢメモリを使用したり，データにパスワードを設定したりして，厳重に管理することが必要である。また，不審な人物のチェックができるように，警備システムの導入など，企業内や室内の入退室チェックができる体制づくりを検討する。対応としては，管理簿で持ち出し等の確認をし，確認ができなければ，盗難の可能性もあるので警察に被害届けを提出することを検討する。課題としては，パスワードの管理方法を確立させることや警備システムの導入費用等を工面することである。

○「努力を要する」状況（C評価）の記述例（事例①）

ＵＳＢメモリは使用しない方がよい。もし，使用する場合は，鍵が付いている保管庫で管理を行い，データにパスワードを設定して保存する。

【手立て】他の生徒たちの意見や発表の内容を確認させて，対策や対応について助言した。

「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例では，ワークシートの「あらためて整理して記述する」内容について，自分の考えと他の生徒たちの意見や発表から気付いたことを踏まえて整理し，情報セキュリティを確保するための方法を考案して表現し，評価・改善しているのでB評価とした。事例②と事例③についても同様に評価し，総括する。例：「事例①をB，事例②をB，事例③をCとした場合，評価結果をA＝３，B＝２，C＝１として平均値を計算し，総括をBとする範囲を【２．５≧平均値≧１．５】とすると，（２＋２＋１）÷３＝１．６７となり，総括した評価はBとする」

「十分に満足できる」状況（A評価）の記述例では，B評価と判断した生徒と同様の状況であることに加え，考案した方法の課題についても記述が見られる。

「努力を要する」状況（C評価）の記述例では，他の生徒たちの意見や発表を踏まえての考察が不十分であり，整理もされていないのでC評価とした。手立てとして，他の生徒たちの意見や発表の内容を確認させて，対策や対応について助言することで改善に取り組めるよう支援した。

（２）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

ア　評価の進め方

本事例における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は，「企業における情報セキュリティの確保と法規について自ら学び，適切な情報の収集と管理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている」ことである。

本事例では，グループワークの様子を観察したりワークシートの記述を見取ったりすることにより評価を行う。グループワークは，４～６名のグループを想定している。積極的に授業に取り組もうとする姿勢を評価するために，資料１の「評価用紙」を用いてグループワークの様子を机間指導しながら評価する。また，主体的に学習に取り組む態度を見取るために，生徒自らの考えと他の生徒たちの意見や発表からの「気付き」及び「あらためて整理する」に対するワークシートへの記述で評価する。生徒による自己評価については，評価を行う際に考慮する補助的な材料として用いる。

＜授業展開＞（３　指導と評価の計画の太枠部分）

①情報セキュリティの不十分な企業が抱える危険性や周りへの影響について事例を通して考える。

②個人で考える　→　グループワーク　→　発表（グループワークや発表で気付いたことをメモする。）

③事例に対する危険性や影響について，あらためて整理してワークシートへ記述する。

④事例に対して，どのような対策や対応が必要になるのかを調べながら考える。
⑤個人で考える　→　グループワーク　→　発表（グループワークや発表で気付いたことをメモする。）
⑥情報セキュリティを確保するための基礎的な方法について，あらためて整理してワークシートへ記述する。

イ　評価の実践事例

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	学習した内容を踏まえ，企業における情報セキュリティを確保することの重要性について考察し，グループワークに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	学習した内容を踏まえ，企業における情報セキュリティを確保することの重要性について考察し，グループワークに主体的かつ協働的に取り組んでいるとともに，情報セキュリティ対策の必要性についても言及している。	学習した内容を踏まえ，企業における情報セキュリティを確保することの重要性について考察が不十分であり，グループワークに主体的かつ協働的に取り組もうとする態度が見られない。 【手立て】 机間指導でヒントを与え，考察すべき事項に気付かせる。

本事例では，資料３のワークシート②を用いて，企業における情報セキュリティの確保について，企業活動と関連付けて考える。

ここでは，企業における被害の具体的な事例を基に個人で考え，他の生徒たちの意見や発表からの気付きを踏まえながら，あらためて整理する過程において「学習した内容を踏まえ，企業における情報セキュリティを確保することの重要性について考察し，グループワークに主体的かつ協働的に取り組もうとしている」ことを評価規準とする。

資料１の評価用紙を用いてグループワークの様子を机間指導しながら評価する。その際，生徒の特徴的な様子を，Ａ（特によい），Ｃ（改善が必要）として記録する。メモ欄については特記事項を記述し，必要に応じて評価に反映させる等の工夫が考えられる。また，ワークシートの「あらためて整理して記述する」の記述により「主体的に学習に取り組む態度」について評価し，生徒による自己評価については，評価を行う際に考慮する補助的な材料として用いる。

【資料１　評価用紙】

情報処理
○月○日（○）○校時　　単元名「情報セキュリティの確保と法規」

グループ	学籍番号	名前	メモ	評価
①	１１０１	○○　○○	＜記述例＞　事例③の課題について言及	[A]・B・C
	１１０２	○○　○○		A・[B]・C
	１１０３	○○　○○	＜記述例＞　全く参加していない	A・B・[C]
	１１０４	○○　○○		A・[B]・C

【資料３　ワークシート②】

今日の目標：情報セキュリティを確保するための基礎的な方法について考えてみよう。

【情報セキュリティが不十分な企業で事例①～③が起きたらどのような影響や危険性が考えられますか？】

事例	内容
①	企業情報が保存されているＵＳＢメモリが紛失した事件。
②	企業に送付されてきたメールの添付ファイルを開いたことで，パソコンに保存していた文書作成ソフトウェアのファイルが勝手に暗号化され，ファイル複合のために代金を請求された事件。
③	企業に所属する社員のＳＮＳに，ある人物が勝手にログインをして，社内情報や個人情報及びプライベート写真のデータを盗み取った事件。

事例	自分の考え →	グループ内の意見で気付いたこと →	他グループの発表で気付いたこと
①	＜記述例＞ ・ＵＳＢメモリ紛失によりデータが無いため仕事ができない。 ・企業情報を失ったため企業に迷惑をかけてしまう。	＜記述例＞ ・企業情報が流出する可能性があり，営業活動への支障や技術情報等の流失が考えられる。	＜記述例＞ ・二次被害の可能性がある。 ・情報が流出すれば企業のイメージダウンにつながる。 ・情報が流出すれば損害賠償を請求される可能性がある。

【他の生徒たちの意見や発表を聞いて，気付いたことや分かったことを踏まえ，事例①から③の事件が発生したら，どのような影響や危険性が考えられるのかを，あらためて整理して記述しましょう】

事例	内容
①	＜記述例＞ ＵＳＢメモリの紛失により，業務に支障をきたすだけではなく，企業の情報が外部に流出することが考えられる。そのことにより，企業秘密が利用されたり，取引先情報や顧客情報が悪用されたりするなどの被害による損害賠償請求が考えられる。また，マスコミの報道により企業のイメージダウンを招き，顧客離れなど，企業の業績に悪影響を及ぼすことも考えられる。

自己評価（Ａ：よくできた　Ｂ：できた　Ｃ：できなかった）	評価
グループワークに積極的に取り組むことができた。	
他の生徒の意見や発表を聞いて，気付いたことを記述することができた。	
他の生徒の意見や発表を参考にして，あらためて整理して記述することができた。	
情報セキュリティを確保するための方法について，しっかりと考えることができた。	

＜ワークシートによる評価＞
【他の生徒たちの発表を聞いて，気付いたことや分かったことを踏まえ，事例①から③の事件が発生したら，どのような影響や危険性が考えられるのかを，あらためて整理して記述しましょう】

○「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例（事例①）
ＵＳＢメモリの紛失により，業務に支障をきたすことが考えられる。また，企業情報が外部に流出することも考えられ，そのデータを何者かに悪用されることで損害を賠償する責任を負う可能性がある。これらの影響により，企業のイメージダウンにつながることも考えられる。
○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例（事例①）
ＵＳＢメモリの紛失により，業務に支障をきたすだけではなく，企業情報が外部に流出することが考えられる。情報の流出によって，企業秘密が利用される可能性があり，取引先情報や顧客情報が悪用されることで，損害を賠償する責任を負うことが考えられる。また，マスコミの報道により企業のイメージダウンを招き，顧客離れなども考えられ，企業の業績に悪影響を及ぼす。ＵＳＢメモリの紛失を未然に防ぐためには，鍵がついている保管庫で管理するとともに管理簿を作成して持ち出し等のチェックができる体制を整えることが必要である。
○「努力を要する」状況（C評価）の記述例（事例①）
ＵＳＢメモリの紛失により，業務に支障をきたす。また，上司や同僚に迷惑をかけてしまう。
【手立て】企業の大事な情報が同じ職種の企業や他の人の手に渡る可能性があることについて助言した。

「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例では，ワークシートの「あらためて整理する」内容について，自分の考えと他の生徒たちの意見や発表から気付いたことを踏まえて整理し，企業における情報セキュリティを確保することの重要性について考察し，グループワークに主体的かつ協働的に取り組もうとしているのでB評価とした。事例②と事例③についても同様に評価し，総括する。例：「事例①をB，事例②をB，事例③をCとした場合，評価結果をA＝３，B＝２，C＝１として平均値を計算し，総括をBとする範囲を【２．５≧平均値≧１．５】とすると，（２＋２＋１）÷３＝１．６７となり，総括した評価はBとする」
「十分に満足できる」状況（A評価）の記述例では，B評価と判断した生徒と同様の状況であることに加え，情報セキリュリティ対策の必要性についても記述が見られる。
「努力を要する」状況（C評価）の記述例では，考えられる影響の範囲が企業内に留まっているなど，考察が不十分であり，グループワークに主体的かつ協働的に取り組もうとする態度が見られないのでC評価とした。手立てとして，企業の大事な情報が同じ職種の企業や他の人の手に渡る可能性があることについて助言することで主体的に学習に取り組めるよう支援した。

５　観点別学習状況の評価の総括

単元（指導項目）及び学期末における観点ごとの評価結果を総括するには，A，B，Cの数を基に総括する場合，A，B，Cを数値に置き換えて平均値や割合などを基に総括する場合，A，B，Cの合計が１００点になるように数値に置き換えて総括する場合など，各学校の実態に応じた方法が考えられる
ここでは，観点ごとの評価結果のA，B，Cを数値に置き換えて平均値や割合などを基に総括する場合と，A，B，Cの合計が１００点になるように数値に置き換えて総括する場合を例としている。また，学期末や学年末に評定へ総括することについては，観点ごとの評価結果のA，B，Cを数値に置き換えて総括し，その結果を５段階評価換算表に基づいて評価する場合と，観点ごとの評価結果の点数を総括し，その結果を５段階評価換算表に基づいて評価する場合を例としている。

（１）単元（〔指導項目〕）における観点ごとの評価の総括

評価結果のA，B，Cを数値に置き換えて評価の総括とする場合

評価結果をＡ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１として平均値を計算し，総括をＢとする範囲を【２．５≧平均値≧１．５】としている。

評価機会	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	Ａ（３）		Ａ（３）
2	Ｂ（２）	Ｃ（１）	
3	Ｂ（２）		Ａ（３）
4	Ｂ（２）		Ａ（３）
5	Ａ（３）	Ｃ（１）	
6	Ｂ（２）	Ｂ（２）	
7		Ｂ（２）	
8		Ｃ（１）	Ｂ（２）
平均値	（３＋２＋２＋２＋３＋２）÷６＝２．３３	（１＋１＋２＋２＋１）÷５＝１．４０	（３＋３＋３＋２）÷４＝２．７５
評価の総括	**Ｂ**	**Ｃ**	**Ａ**

（２）学期末における観点ごとの評価の総括

ア　評価結果のＡ，Ｂ，Ｃを数値に置き換え，定期考査における観点別問題の得点と併せて学期末の総括とする場合（各観点の割合を，知識・技術については「評価機会の合計５０％，定期考査５０％」，思考・判断・表現については「評価機会の合計６０％，定期考査４０％」，主体的に学習に取り組む態度については「評価機会の合計１００％」としている）

評価結果をＡ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１として数値によって表し，観点別に作成した定期考査の問題の得点と合計して，総括の結果をＢとする範囲を【０．８≧割合の合計≧０．５】としている。

評価機会	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	Ａ（３）		Ａ（３）
2	Ｂ（２）	Ｃ（１）	
3	Ｂ（２）		Ａ（３）
4	Ｂ（２）		Ａ（３）
5	Ａ（３）	Ｃ（１）	
6	Ｂ（２）	Ｂ（２）	
7		Ｂ（２）	
8		Ｃ（１）	Ｂ（２）
合計【４５】	１４【１８】	７【１５】	１１【１２】
①割合	１４÷１８×５０％＝０．３９	７÷１８×６０％＝０．２３	１１÷１２×１００％＝０．９２
考査【１００】	４０【６０】	２０【４０】	
②割合	４０÷６０×５０％＝０．３３	２０÷４０×４０％＝０．２０	

①+② 【1】	0.39+0.33= 0.72	0.23+0.20= 0.43	0.92
評価の総括	B	C	A

イ　評価結果のA，B，Cを数値に置き換え，定期考査における観点別問題の得点と併せて１００点法で総括とする場合①

評価結果をA＝３，B＝２，C＝１として数値によって表し，観点別に作成した定期考査の問題の得点と合計して，総括の結果をBとする範囲を【８０％≧割合≧５０％】としている。

評価機会	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	A（3）		A（3）
2	B（2）	C（1）	
3	B（2）		A（3）
4	B（2）		A（3）
5	A（3）	C（1）	
6	B（2）	B（2）	
7		B（2）	
8		C（1）	B（2）
①合計 【45】	14【18】	7【15】	11【12】
②考査 【55】	20【35】	9【20】	
①+② 【100】	14+20= 34【53】	7+9= 16【35】	11【12】
割合	34÷53×100= 64．2%	16÷35×100= 45．7%	11÷12×100= 91．7%
評価の総括	34【53】 B（64．2%）	16【35】 C（45．7%）	11【12】 A（91．7%）
	34+16+11= 61【100】		

ウ　評価結果のA，B，Cを数値に置き換え，定期考査における観点別問題の得点と併せて１００点法で総括とする場合②（各観点の割合を，知識・技術については４０点，思考・判断・表現については４０点，主体的に学習に取り組む態度については２０点としている）

評価結果をA＝３，B＝２，C＝１として数値によって表し，観点別に作成した定期考査の問題の得点と合計して，総括の結果をBとする範囲を【８０％≧達成度≧５０％】としている。

観点割合	知識・技術 【40】	思考・判断・表現 【40】	主体的に学習に取り組む態度 【20】

評価機会	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1	A（3）		A（3）
2	B（2）	C（1）	
3	B（2）		A（3）
4	B（2）		A（3）
5	A（3）	C（1）	
6	B（2）	B（2）	
7		B（2）	
8		C（1）	B（2）
①合計【４５】	１４【１８】	７【１５】	１１【１２】
考査【１００】	４０【６０】	２０【４０】	
②換算【５５】	２２【３３】	１１【２２】	
①+②【１００】	１４+２２= ３６【５１】	７+１１= １８【３７】	１１【１２】
達成度	３６÷５１=0.7０５８ ７０．６%の達成度	１８÷３７=0.４８６４ ４８．６%の達成度	１１÷１２=0.９１６６ ９１．７%の達成度
換算【１００】	４０点分の７０．６%= ２８【４０】	４０点分の４８．６%= １９【４０】	２０点分の９１．７%= １８【２０】
評価の総括	B （７０．６%の達成度）	C （４８．６%の達成度）	A （９１．７%の達成度）
	２８+１９+１８= ６５【１００】		

（３）学期末における観点別学習状況の評価の評定への総括

ア　学期末における評価結果のA，B，Cを数値に置き換えて総括とする場合

各学期末の総括した評価結果をA＝５，B＝３，C＝１として数値によって表し，各学期末の各観点の数値を合計し，その数値を５段階評価換算表に基づいて評価している。５段階評価の各ボーダーラインについては，教務規定や成績会議等で評価を確定させる。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	合計	評価(案)	評定
１学期	A（5）	A（5）	B（3）	１３	4	4
２学期	A（5）	B（3）	C（1）	9	3	3
３学期	B（3）	C（1）	C（1）	5	2	2

合計からの５段階評価換算表

最低		最高	評価
１４	～	１５	5
１１	～	１３	4
7	～	１０	3
4	～	6	2
0	～	3	1

イ　学期末における評価結果の点数を総括とする場合

各学期末の評価結果の点数を合計し，その数値を５段階評価換算表に基づいて評価する。５段階評価の各ボーダーラインについては，教務規定や成績会議等で評価を確定させる。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	合計	評価(案)	評定
１学期	３４【５３】	１６【３５】	１１【１２】	６１	３	３
２学期	２７【３０】	３０【４０】	２０【３０】	７７	４	４
３学期	１５【３４】	１４【２８】	１１【３８】	４０	２	２

合計からの５段階評価換算表

最低		最高	評価
８０	～	１００	５
７０	～	７９	４
５０	～	６９	３
４０	～	４９	２
０	～	３９	１

（４）評価の総括実践例

ア　各学期の観点別評価例（1 学期）

評価結果をＡ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１として数値によって表し，観点別に作成した定期考査の問題の得点と合計して，総括の結果をＢとする範囲を【８０％≧割合≧５０％】としている。また，評定は観点ごとの評価結果の点数を合計し，その数値を５段階評価換算表に基づいて評価している。（２学期・３学期も同様）

	観点	知	態	知	思	知	態	知	態	知	思	知	思	思	思	態
	評価機会	1	1	2	2	3	3	4	4	5	5	6	6	7	8	8
番号	氏名	A (3)	A (3)	B (2)	C (1)	B (2)	A (3)	B (2)	A (3)	A (3)	C (1)	B (2)	B (2)	B (2)	C (1)	B (2)

	観点	知					思				
	評価機会	小計【18】	考査【35】	合計【53】	割合	評価	小計【15】	考査【20】	合計【35】	割合	評価
番号	氏名	14	20	34	64.2％	B	7	9	16	45.7％	C

	観点	態		
	評価機会	小計【12】	割合	評価
番号	氏名	11	91.7％	A

知	思	態		
合計【53】	合計【35】	小計【12】	評価	評定
34	16	11	61	3

イ　学年末の観点別評価例

学年末の観点別評価の総括については，各学期末の総括した評価結果をＡ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１として平均値を計算し，総括をＢとする範囲を【２．５≧平均値≧１．５】としている。また，

学年末の評定は，各学期末の評価の点数を平均し，その数値を５段階評価換算表に基づいて評価している。

		１学期					２学期					３学期				
	観点	知	思	態	評価	評定	知	思	態	評価	評定	知	思	態	評価	評定
番号	氏名	B	C	A	61	3	A	B	B	77	4	C	B	C	40	2

		学年末				
	観点	知	思	態	評価	評定
番号	氏名	B	B	B	59 (61+77+40) ÷3＝59.3	3

５段階評価換算表

最低		最高	評価
80	～	100	5
70	～	79	4
50	～	69	3
40	～	49	2
0	～	39	1

	１学期	２学期	３学期	学年末	
知	B(2)	A(3)	C(1)	(2+3+1) ÷3＝2	B
思	C(1)	B(2)	B(2)	(1+2+2) ÷3＝1.66	B
態	A(3)	B(2)	C(1)	(3+2+1) ÷3＝2	B

ワークシートの具体例

資料１「評価用紙」

○月○日（○）○校時　　単元名「情報セキュリティの確保と法規」

グループ	学籍番号	名前	メモ	評価
①	１１０１	○○　○○		A・B・C
	１１０２	○○　○○		A・B・C
	１１０３	○○　○○		A・B・C
	１１０４	○○　○○		A・B・C
②	１１０５	○○　○○		A・B・C
	１１０６	○○　○○		A・B・C
	１１０７	○○　○○		A・B・C
	１１０８	○○　○○		A・B・C
③	１１０９	○○　○○		A・B・C
	１１１０	○○　○○		A・B・C
	１１１１	○○　○○		A・B・C
	１１１２	○○　○○		A・B・C
④	１１１３	○○　○○		A・B・C
	１１１４	○○　○○		A・B・C
	１１１５	○○　○○		A・B・C
	１１１６	○○　○○		A・B・C
⑤	１１１７	○○　○○		A・B・C
	１１１８	○○　○○		A・B・C
	１１１９	○○　○○		A・B・C
	１１２０	○○　○○		A・B・C
⑥	１１２１	○○　○○		A・B・C
	１１２２	○○　○○		A・B・C
	１１２３	○○　○○		A・B・C
	１１２４	○○　○○		A・B・C
⑦	１１２５	○○　○○		A・B・C
	１１２６	○○　○○		A・B・C
	１１２７	○○　○○		A・B・C
	１１２８	○○　○○		A・B・C
⑧	１１２９	○○　○○		A・B・C
	１１３０	○○　○○		A・B・C
	１１３１	○○　○○		A・B・C
	１１３２	○○　○○		A・B・C
⑨	１１３３	○○　○○		A・B・C
	１１３４	○○　○○		A・B・C
	１１３５	○○　○○		A・B・C
	１１３６	○○　○○		A・B・C
⑩	１１３７	○○　○○		A・B・C
	１１３８	○○　○○		A・B・C
	１１３９	○○　○○		A・B・C
	１１４０	○○　○○		A・B・C

資料２「ワークシート①」

今日の目標：情報セキュリティを確保することの重要性について考えてみよう。

【自宅の裏口のドアが１ヶ月間開いたままの状態だと，どのような危険性が考えられますか？】

【コンピュータシステムとネットワークが不正に利用されると，どのような危険性が考えられますか？】

【マルウェアについて，種類名，危険性，被害ニュース（被害状況や被害金額），どのような罪になるのか（懲役や罰金）などをインターネットで調べ，グループで発表しましょう。】

自分で調べたこと

グループで調べたこと（この中から，一番危険だと思うマルウェアをグループで１つ選ぶこと）

他グループの発表で気付いたこと

【①から④の犯罪行為に当てはまる刑法上の罪名を語群から選択して記入し，刑罰（懲役・禁固・罰金・拘留及び科料）についても調べて記入しましょう。】

	コンピュータを利用した犯罪行為	刑法上の罪名（語群から）	刑の重さ（懲役・禁固・罰金・拘留及び科料）
①	データの改ざん		
②	コンピュータウイルスの作成・取得・保存		
③	コンピュータやデータの破壊，動作の妨害攻撃		
④	不正な方法でデータ操作するなどして財産を得る詐欺行為		

語群

ア．電磁的記録不正作出及び供用罪	イ．不正司令電磁的記録作成等罪
ウ．電子計算機損壊等業務妨害罪	エ．電子計算機使用詐欺罪

【情報セキュリティを確保することの重要性について，犯罪行為や刑の重さのことも踏まえて考えてみましょう。】

自分の考え →	グループ内の意見で気付いたこと →	他グループの発表で気付いたこと

自己評価（A：よくできた　B：できた　C：できなかった）	評価
指示されたことをインターネットでたくさん調べることができた。	
グループワークに積極的に取り組むことができた。	
他の生徒の意見や発表を聞いて，気付いたことを記述することができた。	
情報セキュリティを確保するための重要性について，しっかりと考えることができた。	

資料３「ワークシート②」

今日の目標：情報セキュリティを確保するための基礎的な方法について考えてみよう。

【情報セキュリティが不十分な企業で事例①～③が起きたらどのような影響や危険性が考えられますか？】

事例	内容
①	企業情報が保存されているＵＳＢメモリが紛失した事件。
②	企業に送付されてきたメールの添付ファイルを開いたことで，パソコンに保存していた文書作成ソフトウェアのファイルが勝手に暗号化され，ファイル複合のために代金を請求された事件。
③	企業に所属する社員のＳＮＳに，ある人物が勝手にログインをして，社内情報や個人情報及びプライベート写真のデータを盗み取った事件。

事例	自分の考え →	グループ内の意見で気付いたこと →	他グループの発表で気付いたこと
①			
②			
③			

【他の生徒たちの意見や発表を聞いて，気付いたことや分かったことを踏まえ，事例①から③の事件が発生したら，どのような影響や危険性が考えられるのかを，あらためて整理して記述しましょう。】

事例	内容
①	
②	
③	

【事例①から③に対して，どのような対策や対応が必要になるのかを調べながら考えましょう。】

事例	自分の考え →	グループ内の意見で気付いたこと →	他グループの発表で気付いたこと
①			
②			
③			

【他の生徒たちの意見や発表を聞いて，気付いたことや分かったことを踏まえ，事例①から③の事件が発生したら，どのような対策や対応が必要になるのかを，あらためて整理して記述しましょう。】

事例	内容
①	
②	
③	

自己評価（A：よくできた　B：できた　C：できなかった）	評価
グループワークに積極的に取り組むことができた。	
他の生徒の意見や発表を聞いて，気付いたことを記述することができた。	
他の生徒の意見や発表を参考にして，あらためて整理して記述することができた。	
情報セキュリティを確保するための方法について，しっかりと考えることができた。	

定期考査（評価問題）の具体例

「思考・判断・表現」を問う定期考査問題例

問１　コンピュータシステムとネットワークが不正に利用されると，どのような危険性があるのかを説明しなさい。

（解答例）コンピュータシステムの破壊や常にネットワークに侵入できるようにシステムを改ざんされ，情報を盗み取られることや，データの改ざん・破壊，個人情報や保存データの流出などの危険性が考えられる。また，他のコンピュータシステムへの攻撃（迷惑メール含む）の中継に利用される危険性も考えられる。

問２　情報セキュリティを確保することの重要性について考え，キーワードを用いて答えなさい。

キーワード：犯罪行為，法規，対策

（解答例）コンピュータシステムやネットワークが不正に利用されることにより，データの改ざんや情報漏洩及び詐欺などの危険性や被害に遭うことが考えられる。このような危険性や犯罪行為などから情報を守り安全性を保つために，人間が守るべき様々なことが法規として整備されている。また，情報セキュリティを確保するために，ウイルス対策ソフトウェアの導入や各種ソフトウェアのアップデートなどの対策を実施することが重要である。

問３　営業課に所属する社員が同一企業内の人事課のネットワークに無許可でアクセスし，個人情報を閲覧した事件について，未然に防ぐための方法を考え，キーワードを用いて答えなさい。

キーワード：アクセス，制限

（解答例）企業の情報セキュリティを確保するために，コンピュータやネットワークを利用することができるアクセス権は，課ごとや利用者ごとに制限し，他課のネットワークに勝手にアクセスできないようにする。

【商業部会作成委員】

小山　英明	宮城県教育庁高校教育課課長補佐
髙橋　好伸	仙台市教育局学校教育部高校教育課指導主事
千葉　孝明	宮城県松島高等学校教諭
五十嵐由希	宮城県志津川高等学校教諭